婦人衛生雜誌

大正九年九月三十日發行

第三百五十五號

婦人衛生雜誌

第三百五十五號目次

講演

○戰後人種衞生　醫學博士　永井　潜

叢談

○飲食物による中毒　醫學博士　西川義方

育兒

○先づ愛兒の體質を知れ　醫學博士　柳瀨實次郎
○子供を失つた經驗　醫學士　淺田　一

家庭衛生

○卵に就て　醫學士　淺田　一
○主婦の任務（承前）　メリー、ルイス、フースト

雜報

○兒童衞生展覽會
○女子工場監督官養成
○婦人消防隊
○新白銅貨
○全國鑛泉調査

會報

○新潟支會會報
○轉居

通知

來る十月二日(第一土曜日)午後一時半より神田區一橋通共立女子職業學校内に於て婦人修養倶樂部と協同にて本會例會相開き左の講話有之候間何卒會員諸姉の御出席あらむことを

戰後の婦人問題　法學博士　岡實君

大正九年九月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや知識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんことを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んことといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も／＼衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を然かざるもの、如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐこととしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治三十二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の知識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の者は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す。入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす終身會員は一時に金貳拾五圓以上特別會員は一ヶ月金五拾錢以上、通常會員は一ヶ月金參拾錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の會議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て發刊する雜誌は無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親族知友より通知さるべし但既納の會費は總て返却せず●第九條　本會に推薦員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の[illegible]殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、理事[illegible]名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長理事評議員は毎年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は理事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し理事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る理事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長理事評議員に無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め圖遊會を開くことあるべし●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演説談話を囑託し會員をして隨意聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會會場に誘致し講義演説等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべきこと）●第十九條　講義演説等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第二十一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第二十二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第二十三條　會計の收支は總て會計擔任の理事の檢印を要するものとす●第二十四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第二十五條　地方に於て本會會員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第二十六條　本會會員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第二十七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第二十八條　本會の雜誌は支會に間送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第二十九條　支會は隔月一回其狀況を本會に報告すべし●雜誌●第三十條　本會は集會の都度雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第三十一條　會員又は本會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄贈する者ある時は本會會長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を簿冊に登錄し尙本會雜誌を以て報告すべし●第三十二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）●第三十三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所所在の郵便局（本郷區駒込千駄木町郵便取扱所宛）振出しあるべし●第三十四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢く會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議員會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし●

東京市本郷區駒込千駄木町五十番地　私立大日本婦人衛生會



戰後人種衛生

醫學博士　永井潜

嘗て本會に於て永井博士を請じ民族衛生の大問題に就て一場の講演を乞ひ其の要旨は之を本誌上に發表致したことがありましたが其後同博士が藝備醫學會第二十五年總會兼祝典の席上に於てなされた此の戰後人種衛生の御講演も是非併せて本會員諸姉の御一讀ありて然るべきものと信じ藝備醫學會の承諾を得て之を玆に掲げます。（編者）

一碧鏡の如き水面に、風起り葉落ちて、千波萬波洶湧疊織して止む所なきやうに、戰爭が人間生活に及ぼす影響は實に複雜多樣極なきものである。而かも昔より思索家は主として戰爭の光輝ある半面のみを見て、暗黑なる半面を顧みなかつた感がある。ヘーラクリットは『戰爭は凡らゆる物の父である』と云つて戰爭を謳歌して居る。カントの如き平和論者でさへ『人間は平和を欲する。併しながら自然は彼れの種族の爲により良きことを知つて居る。彼れは爭鬪を欲する』と云つて戰爭の爲に辯護して居る。成る程戰爭は人生の頭上に下さるゝ最も露骨なる淘汰の大鉞である。「雨降つて地固る」と云ふ諺の樣に、此の大暴風雨によつて、朽頽せる舊物悉く一掃せられて潑溂たる新生が玆に其の萌芽を擡げるのである。斯る見地より、將さに爛熟隤落せんとする現代文明を救ふものは、實に現在の大戰爭であると論斷する識者も出た次第である。

さりながら、戰爭は確かに人生に於ける一大悲慘事である。就中人種衛生の立脚地より見るとき、最も痛切に之を感ずるのである。今や平和第二の春を迎へて改造の聲到る所に喧しく、大破壞に次ぎて大

建設を剏むべく世界は忙殺されんとして居るが、而かも大動亂の餘波猶ほ未だ靜まらず、前途頗る遼遠の思あるの時に當りて、愼重に戰爭が人種衞生の上に蒙らせたる慘害を考覈し、徐ろに之れが計を成すことは、蓋し改造の改本的急務と信ずるのである。

戰爭と人口問題

國家の盛衰は、これを形造る民族の量と質とによりて決定せらるゝや言を待たない。優良なる素質を有する人口の增加を企圖すること、是れ實に人種衞生の究竟の目的であつて、此の生物學的根本條件を具備せる民族にして始めて永遠の隆盛を期すべきであり、然らずんばたとひ其の國富み其の兵强く、文化中外に燦然たるものありと雖も、槿花一朝の夢に過ぎざる事は史上の殷鑑明かに之を證明して居る。

現代の文明諸國が人口問題に苦心しつゝあつたのは、日既に久しい。或は七十年或は五十年を絕頂として、歐洲諸强國の生產率は年を追ふて遞減した。彼等は一面文化の力によりて死亡率を減ずることによりて、此の不利なる狀態に順應して增殖率を低下せしめざらんことに努めて居る。さりながら死亡率の減少には或る界限があつて、之れよりも尙ほ減少せしめることは不可能である。若し死亡率は既に此の極少の界限に達して、夫れ以下に減ずることは出來なくなり、而して生產率は依然として低下したならば、人口の增加率は年々に低落して終には生產數が死亡數を補ふに足らざる樣な悲境に陷らないとも限らない。現に佛蘭西の如き、其の增殖率が著しく遞減し來り、頗る憂慮すべき狀態にあることは周知の事實である。曾ては生產率の高きを以て諸强國の間に一頭地を拔いて居た獨逸すら同じ運命より免ることは出來なかつた。而して諸强國に於ける生產率の此の著しき減少は不可抗なる自然的結果にあらずして、避妊と云ふ人爲的妨碍が其の原因の最も重要なるものたることを聞くに及びて、現代文明人の心理を咀はずには居られない。

文明の光の弱い露西亞には、其の際も亦時に薄い

ものがある。露西亞の生殖衛生は頗る原始的で、自然に一任されて居る。即ち最も多く生産し最も多く乳兒が死亡するのは露國である。夫れでも其の増殖率は非常に高い。最近ナウマン氏は『中歐に於ける民族問題』を詳論して獨墺洪國對露國の人口の推移を比較し

	一八〇〇年	一八五〇年
歐洲露西亞	三千八百八十萬人	六千二百二十萬人
獨墺洪國	四千四百十萬人	六千六百十萬人
	一九〇〇年	一九一〇—一二年
歐洲露西亞	一億一千百三十萬人	一億三千六百萬人
獨墺洪國	一億〇一百八十萬人	一億一千六百三十萬人

上に示せる表を掲げて、而して『此の數字が未來の歐羅巴に於ける一切の問題を包括す』と論斷して居る。實に一八〇〇年には獨逸の人口二千四百萬に對して歐洲露西亞は三千九百萬を有し、獨逸の約一倍半に過ぎざりしものが、一九一〇年には獨逸の六千四百萬に對して露西亞は一億三千三百萬となつて、獨逸の二倍を超えて居る。そうして「雪ナダレ」の樣に時と共に愈々其の増大する割合が高まるのである。白人種が八十年毎に其の人口を二倍するに反して黃人種は六十年毎に倍加する。而して世に黃禍なるものあれば、是れこそ眞の黃禍の原因であると論せる有名な人種衛生學者もある。

斯く人口問題の量の關係に於て、現代文明國は久しく頭を惱ましつゝあつたのであるが故に、一面人口問題の質の關係に於てはどうであつたかと云ふに、玆にも亦、大なる憂が横はつて居た。文明諸國に於る生産率が低下しつゝあるのは疑ない事實であるが、此の量的事實を、質の立場から論ずる爲めには、其の減少が果して如何なる階級に於て主として現はれつゝあるかを考慮せねばならぬ。若し生産率の減退が、專ら人種衛生學上好ましからざる素質を有する下層の階級に於て行はるゝならば、其の減退たるや弔すべきものに非ずして却て慶すべきものであるかも知れない。之に反して若し其の減退が優良の階級に於て行はれ、之に代りて劣等の種性を有す

るものが蕃殖するならば獨り量の關係上悲しむべきのみならず、質の上から論じても亦憂ふべきことで、人種衛生上大に留意せねばならね現象である。不幸にして現代文明國に於ける場合は、前者に非ずして後者であることが、各方面より各種の統計的事實によつて立證された。之に關する詳細のことを今茲に臚列する暇はないが、唯其一二の例證を擧げて見るならば、夫の有名なベルチロン氏が佛蘭西に於て各方面に於ける現代知名の士四四五組の夫婦に就きて、其の子供の數を檢べて見たところが、總數五七五人で兩親の人數さへ補ふことが出來ぬと云ふ事實が分かつた。又倫敦と巴里とで全市街を其の住民の種類に隨つて六に區劃し、各區域に於ける生産率を調査した成績によると次の樣であつた。

住民の階級	最貧賤者の住居區域	貧賤者の住居區域	中流者の住居區域	中流の上に屬する者住居區域	上流者の住居區域	最上流者の住居區域
一五―五〇歳の婦人千人の生産數	一四七人	一四〇人	一〇七人	一〇七人	八七人	六三人

即ち上の表に示す樣に、優秀なる階級にありて生産率が低く、劣等者に於て高いことが知られる。斯樣な譯で歐洲各國の人口問題は近時大に悲觀せざるべからざる狀態にあつたのである、碩學グルーバー氏をして Kultur pflückt sich bestendig die schönsten und besten Blüten aus dem Garten des Volks, schmückt sich damit und lässt sie verwelken と嘆息せしめたのは、大に理由のあることであつた。然る所茲に今度の大戰争が勃發した。其れが如何に大なる意義を持つべきかは言ふ迄もない。

戰争が量的關係より見て人種衛生學上非常に有害であることは述ぶるを要せぬ。殊に武器の進歩と戰術の發達とは愈〻其の犧牲をして多からしむるのである。今度の大戰に於て、聯合國側は約四千四百萬人の、四國側は約二千六百萬人の總動員を行ひ、之を砲彈の雨と云ふよりも寧ろ密集せる砲彈の壁の下に立たせた、之によつて聯合側では約四百八十萬人の戰病死者と、一千一百萬人の負傷者とを出し、四

國側では約三百萬人の死者と、七百六十萬人の負傷者とを出して居る、即ち無慮七百八十七萬の生靈を戰の神の犧となし、一千九百萬人を傷つけて、始めて、血腥き幕が鎖されたのである。是れは直接戰闘員の損失であるが、間接に饑餓や疾病等の爲に斃れた非戰闘員の損失を加算したならば、其の數や幾何であるだらうか、想ひ遣るだに凄愴の感に堪へない。さて各國に於ける此の戰闘員の損失を檢して、之を恢復すべく幾何の幾月を待たねばならぬかを計つて見ると、損失の大小と壯丁增殖率の多寡によつて勿論相違がある。

國別	壯丁全數	壯丁增加數	大戰に於ける壯丁死亡數	恢復に要する年數
獨逸	一三〇〇萬人	一六・八萬人	一六一萬人	約十ヶ年
佛蘭西	七五〇	一・九	一四〇	約七十年
英國	九〇〇	八・三	七〇	約九年
伊太利	五五〇	一・三	四六	約三十六年

即ち英獨の如きは一九三〇年になれば損失を恢復し得るが、佛蘭西の如きは七十年の長日月を假すにあらざれば、此の戰爭五箇年間に受けたる痛手を癒やすことすら出來ぬのである。

量の問題に於て、今爾の大戰が人種衛生の上に斯く慘ましき打擊を加へたのであるが、轉じて質の問題に關して考察すると、尙ほ更に憂慮すべき幾多の暗雲が蟠かまつて居る。先づ現代文明國に於ける兵員は、一國民の中核を形成すべき優良種である。彼は戰場に立ちて最も進步せる最も恐ろしき破壞力に曝露せらるゝまでには、少なくとも三回の嚴肅なる試驗を通過し來つて居る。其の第一は幼時に蒙る自然淘汰であつて、虛弱なる體質を有つて居る者は、各種の傳染病其他の侵害の爲に斃れる。殊に此の淘汰は男兒に嚴にして女兒に寬である。即ち男兒の死亡率は女兒よりも著しく高い。斯くて此の第一の淘汰に打ち耐えて青年期に達すると、徵兵檢査なる人爲淘汰を受け、之に及第した者にして始めて兵員となる。而して此の兵員が戰場に送られ、心身優良なる者があらゆる困苦窮乏に打ち勝ちて戰場で働いて命を落し、之に反して心身の比較的薄弱な者は、い

ち早く心身の力を失墜して後送されて生存を保つことになる。而して此の優良なる國民の中核を形成せる壯丁は、多くは未婚者であつて其の貴重なる種性を後代に遺傳する機會を得る以前に、既に肉彈となつて消滅すべき運命に置かるゝのである。之に反して劣等なる種性を有する者は、却つて安穩に家庭生活を營み、其の劣弱なる種性を遺傳すべき有利なる位置にあるのである。實に徵兵制度及び其の下に成り立つ軍隊を有する現代文明國の戰爭は淘汰すべき者を淘汰せずして、其の劣れる種性を保護し、淘汰すべからざる者を淘汰して其の尊き種性を絕滅せしむる點に於て、人種衞生上最も恐るべき逆淘汰である、今種性保續に關して良種と不良種との間に極めて僅少な利と不利とがあつたても夫れが世代を重ぬる間に如何に重大なる差違を來すことになるかを算定して見ると、優良種甲が三人子供を生ずる間に、不良種乙は四人生ずる割合であるとすると、第一代目には兩　種の比は　3:4=43%:57%　第二代目には　9:16=36%:64%　第三代目には　27:64=30%:70%　第四代目には 81:256=24%:70% となり、順次斯の如くにして、三百年も經過せば優良種甲は、全民族の僅に 3% をなすのみで、不良種乙が 97% を占むる結果になる。或は生產の差が一層輕微である場合を考へて、甲が三十三人の生產を爲す間に、乙が三十四人を生ずるものとする、換言すれば、乙の方が甲に比して僅に $\frac{1}{33}$ 丈け生產數が多い場合を考て見ても、僅に二十三代半で、乙種は既に甲種の二倍の數に達するのである。斯の如くにして逆淘汰が如何に恐るべき結果を齎らすかは想像するに餘りある。

戰爭が民族の種性を惡化する其他の原因として、優秀なる知能の遺傳は、多く壯年時に行はるること、就中壯年時に於ては生殖腺の榮養佳良にして、生殖細胞の成熟も盛んに行はれるもので、隨つて生殖細胞に於ける遺傳物質の新しき配在によつて尊重すべき變化を生ずる機會が多いことを主張し、隨つて戰爭によりて未婚の壯丁を犧牲にすることは、優秀な

る知能的遺傳を阻止すべき逆淘汰であることを述べて居る學者もあるが、是れも大に留意すべき一議論たるを失はないが、併し優秀なる知能の遺傳は、多く壯年時代に行はれると云ふ前提が、今後一層的確に決定される迄は、斷定的に此說を是認する譯には行かぬかと思ふ。

夫れよりも尙一層確實なる事實であり、且つ大に注意すべき問題は、戰爭と花柳病との關係である。有名な優生學者ケロッグ氏が『軍隊は花柳病の最好の培養基である』と云つた樣に、元來兵營生活其の物が、屢〻花柳病感染の機會を與へ、之によつて純朴なる田舍の生活を惡化する恐があるが、戰爭によりて花柳病は一層其の暴威を逞うする、花柳病の歷史を見ると、之が歐羅巴に蔓延したのは全く戰爭の手によつて蒔き散らされたのであると云はれて居る。戰前一九〇三乃至七年の統計を見ると、十萬人の兵卒中黴毒に罹れる者は佛六七一人、獨四四四人、英國に至りては實に三〇〇〇人の多きに達す、淋疾・軟下疳の者は佛二二〇〇、獨一八〇〇、英六五〇〇である。戰時中は種々なる心理狀態より刹那の享樂を恣にするに至るは自然の勢である。獨り兵員のみでなく、一般民衆にも亦工場の繁盛、外來勞働者の增加、青年者の收入割增等に基づきて、性的生活が不健全に陷る結果として、花柳病が甚だしく蔓延するものである。占領されたる塹壕内にも無數の娼婦が寄生蟲の如く居殘つて、砲彈や毒瓦斯以外のより猛烈なる病毒で占領者を苦めたり、或は平和後中歐に入らんとする旅行者が、第一に耳にするのは『黴毒に用心せよ』と云ふ警語であると云ふことを聞いても、如何に其の流行の烈しかるべきかを想見するに足るのであるが、其の花柳病は實に人種衛生の一大恐敵であつて、直接生殖細胞を害し、啻に量のみならず質に於ても甚だしく人間を惡化する。

大戰と公衆生活

今囘の大戰が一般公衆生活に如何なる影響を與へたかを觀察すると、先づ第一に

兩性失比 Sex disproportion の問題が起こつて來る。一九一〇年の終に行はれた最近の「センサス」によりて見るに、歐洲各國は既に著しき兩性失比を示し、女性の數の超過を示して居た。卽ち次の表に示す通である。

國別	女子の超過實數	男子千人に對する女子數
英國及びウエールス	一、一七九、〇〇〇	一、〇六七・六
スコツトランド	一四三、〇〇〇	一、〇六二・〇
伊太利	六二八、〇〇〇	一、〇三六・九
墺利亞	五〇六、〇〇〇	一、〇三六・一
佛蘭西	六八三、〇〇〇	一、〇三五・四
獨逸	八四五、〇〇〇	一、〇二六・四
ハンガリー	一九六、〇〇〇	一、〇一八・九
白耳義	六二、〇〇〇	一、〇一六・九
アイルランド	六、〇〇〇	一、〇〇二・八

今若し此の中より、結婚及び生殖に關係少なき、二〇歲以下及び六〇歲以上の者を除きて統計して見ると

國別	女子の超過數	男子千人に對する女子數
英國及びウエールス	八三八、〇〇〇	一、〇九三
スコツトランド	一〇〇、〇〇〇	一、〇八八
伊太利	六六〇、〇〇〇	一、〇八五
墺利亞	三一六、〇〇〇	一、〇四七
ハンガリー	一六七、〇〇〇	一、〇三五
獨逸	四〇〇、〇〇〇	一、〇二六
佛蘭西	二七〇、〇〇〇	一、〇二六
白耳義	一五、〇〇〇	一、〇〇一
アイルランド		九九五

卽ちアイルランドを除くの外、上述の歐洲諸國では、戰前既に婦人の過剩が問題となるべくあつた。而して今次の大戰が勃發したのである。之によつて、男子、而かも生殖上最も大切なる年齡期にある男子の多數が、一朝にして戰歿し、兩性の比例をして愈〻均衡を失せしめたのは言を待たない。既に一九一七年の統計によりて見るも、英國に於ても、二〇乃至六〇歲の年齡階級の男子一〇〇〇に對して女子一一五〇に高まり、又獨逸、墺洪國では、加之、約一二〇〇に高まつた、一九一八年に獨逸食糧局で刊行せる公報によると、一九一七年十二月の獨逸國民の總數は六千二百六十一萬五千二百七十五人で、其の中女子が男子に超過せること實に七百十萬人であ

る、之を一九一〇年の女子超過たる八十四萬五千人に比較すると、實に九倍に及んで居る。又以て如何に今次の戰爭が、兩性失比をして極端に陷らしめたかを推定することが出來る。抑〻男女兩性の比例を決定すべき因子たるものは、(一)兩性の生產數。(二)兩性の死亡數。(三)移住の三者である。而して歐洲諸文明國に於ては吾が日本と異なり、平時に於て既に女子超過に苦しむが如き狀態を惹き起したる主なる原因は、何であつたかに關しては、大に硏究すべき價値があるが、今暫らく之を省略して、唯單に歐洲諸文明國では、兩性の生產、死亡の比例以外に、男子、而かも靑年及び壯年時代の男子に於て、海外移住が盛んに行はれることが、兩性失比の原因として重要なる意義を有するものであることを一言して置きたい。

兩性の失比を人種衞生の立場から攻究するに當つては上に掲げた樣に、男女總數の比例や、或は二〇乃至六〇歲の年齡期間に於ける兩性の比と云ふが如き者よりも、尙より以上精細な比較が必要になつて來る。今グロトヤーン氏の報告に基く一九〇七年度の獨逸の材料によつて之を觀察するに、既述の如く、戰前既に、獨逸に於ては、可なり著しい女子超過數を示して居たとは云へ、併し、眞に結婚、生殖上大切な年齡期たる二〇乃至四〇歲の年齡期に於る男女の比較は、次表に示す所によつて明かなる如く、男子千人に對する女子九八八人であつて、決して女子の超過を示さぬ。

年齡級	男子千人に對する女子の數
二〇―二五歲	九九五
二五―三〇歲	九九一
三〇―四〇歲	九六八
四〇―五〇歲	一、〇二七
五〇―六〇歲	一、一二四
六〇―七〇歲	一、二〇六
七〇歲以上	一、二六九

斯る狀態に於てさへ、結婚はなか〳〵容易でなかつた、一九一〇年の「センサス」によると、獨逸に於ては、二〇乃至二五歲の男子では九・一七%は未だ獨身で、僅かに八・三%丈けが結婚して居る。卽ち此の年齡級の男子では、十二人の中僅かに一人が結婚し、他は獨身で居ると云ふ割合である。次に二五乃至三

〇歳の男子では、獨身者四九・四%、結婚者五〇・六%で、即ち十人の中五人はまだ獨身で居る譯になつて居る。更に進みて三〇乃至三五歳に至ると獨身者二二%、結婚者七八%、三五乃至四〇歳では、獨身者一三・一%、結婚者八六・九%となつて居る。

然り而して、斯く結婚が容易でないことは、單に獨身者が多くなるといふ點に於て、人口增殖の上に不利益であるのみならず、結婚難は、上の統計的事實によつても明示されて居る樣に、一面必ず晩婚を伴ふもので、其の點に於ても亦人種衞生上頗る不利益である。ルビン及びヴエスターガルト氏の計算によると、平均の產兒數は、結婚年齡が二十五歳以下であると、平均產兒數は三・五〇。二五乃至二九歳であると、三・〇五。三〇乃至三五歳であると、三・〇二。三五乃至四四歳であると、二・二八となる。即ち晩婚は人口增殖を阻害する者たるや明かである、ゴルトン氏の檢索によれば、女子が二十歳で婚する場合と、二十九歳で婚する場合とに於る產兒の平均數は、8:5の割合をなすと云ふことである。

斯く戰前既に兩性の權衡及び結婚問題に關して苦き經驗を嘗めつゝありし歐羅巴の諸文明國は、今次の大戰によつて俄然大難關に到著せねばならぬことになつた。之を單に總人口の上より見て、兩性失比の關係を尋ねて見ても、非常な不權衡が起つて來て居る。一九一八年の獨逸の報告によつて見ると女子の超過數は、戰前に於けるが如く、八乃至九十萬人にあらずして、一躍二百七十萬人(現在總人口六千五百萬人中、女子三千三百九十萬人、男子三千百二十萬人)となつて、從來の三倍以上になつた。(獨逸食糧局の報告によれば既に上記した如く、女子の超過數七百十萬人に上るとあれど、果して正しき統計なるか否か不明なり)。特に結婚生殖に關係ある青年壯年期に於ける兩性の不權衡は、一層峻烈であることを考へなければならぬ。蓋し恰度此の大切なる年齡期にある男子が戰爭の爲に俄然一掃されたのであつて、獨逸に於ては戰死者の數だけでも實に百六十萬

人に上つて居る。之に加ふるに三百七十萬人の負傷者があり、而して其の多數は不具となつて配偶者たるべき資格を缺くことを思へば、問題は益々慘憺たるものがある。

兩性失比の結果は、獨り結婚難、生殖難を招くと云ふ單純なものでなく、其の社會生活に及ぼす影響は、複雜にして多々注意すべき者がある。其の重要なる一として考ふべきは、性の道德の頽敗が必ず之に隨伴する。而して人種衞生上、玆に私生兒問題が研究の一中心を形成することになつて來る。歐洲各國では、從來とても、此の私生兒問題は可なり注意を拂はれて居たのである。思ふに文化の餘弊として起る享樂主義、生活難、結婚難等は、必ず其の間に私生兒問題を孕ましめずには止まない。戰前に於ける獨逸の統計によれば、生產兒の約一割は私生兒であり、(公生兒九一%、私生兒九%、日本の統計も略ぼ之れに類す)。而して其の中約五分の一丈けが、後日、其の父母の正式の結婚によりて、嫡出子となるのである。又獨逸及び諾威に於て、初產婦に就て調らべて見ると、其の三分の一乃至殆ど五分の二は、私生兒を產むのである。又た正當の妻として初產する婦人に就て調査して見ると、殆んど其の半數は懷妊後に結婚したものである。例へばザクゼン王國では、一九〇二年の調査では、初生兒の四五%は結婚後七箇月にして、而かも其の大多數は成熟兒として產れた。又同年にコーペンハーゲンで調らべられた所によると、正妻の初產婦九百九十九人中、三百八十九人即ち三分の一以上は結婚後七箇月前に、四百八十一人(四八・一%)は、其の九箇月前に出產した。更に墮胎等の事を考察の中に加へたならば、其の結果は如何であらうか、實に驚くに堪へたる話である。

是等の例に徵するも、由來如何に甚しく文明國に於ける性の道德が亂れて居たか、將た私生兒問題が看過すべからざる意義を有して居たかを知るに餘りある次第である、況んや兩性の權衡一朝にして甚しく攪亂された今後に於てをやである。即ち今後は、

私通、私生兒は甚だしく增加し、而かも私通婦が後日其の情夫と正式の結婚を爲すことによつて、私生兒が嫡子として公認せらるゝ場合は、從來に比して著しく減少するに違ひない。眞に忽にすべからざる問題である。

扨て從來とても、私生兒が其の兩親の正式の結婚によつて公認されない場合には、其の大多數は幼少時に死亡して、生殖を行ふ年齡期にまで達する者は、其の一小部分に過ぎないのであつて、之を哺乳兒に就て見るも、私生兒の死亡率は公生兒の夫れに比して二倍多いと云はれて居る。加之、早く既に胎內に於て、私生兒は往々生活を保つことが出來ずして、死產となる場合が、公正兒に比して遙かに多いのである。若し私生、正生兩兒が、胎內で同一の割合で死ぬるものとせば、此の兩種の兒の死產の比例も亦、其の生產の比に等しく、死產の私生兒が、總死產兒の約一割を占むべき筈である。然るに實際に於ては、日本の統計に就て見るも、死產私生兒は、約總死產の二割五分を占めて居る。

斯く私生兒は公生兒に較べて生存が困難であるが、よし夫れが生存を保つたとした所で、心身共に劣等の者が多いのである。プロイセンの統計によれば、補助學校にある低能兒の二割五分は私生兒である。即ち若し私生兒公生兒共に同一の數の割合に於て低能兒を出すものとせば、私生兒の低能者は、約一割であるべき筈である。換言すれば以上の事實は、私生兒の方が、公生兒に比して約二倍半乃至三倍も餘計低能兒を出すことが多いことを示すものである。重罪犯人、淫賣婦等に於て檢らべられた結果も、矢張略ゞ同一の關係を示して居る。

然り而して、斯く私生兒が公生兒に比して心身共に劣等である所以は、一面其の遺傳的素質に於ても、既に多少劣弱であることを考へねばならぬ理由もあるが、夫れよりも尙ほ大切なることは、環境の不利なることであらねばならぬ。私生兒が胎內生活より出產後の生活に至る迄、最も保護を必要とする時期

に於て、心身の衛生上不利益なる位置にあらねばならぬことは、改めて言を要せぬのであつて、懐妊期に於ける母の心身の過勞、生産後の保育敎養の缺陷は、實に先天的に黑き星の下に生れたる此の可憐の肉塊の前途をして、愈々暗憺たらしむるのである。

次に女子超過と密接の關係を保てる大切なるものは、婦人勞働問題である。此の婦人勞働問題も亦、戰前既に諸文明國に課せられたる一難問題であつた、蓋し文化は機械を造り、機械は資本の萬能を招き、資本の萬能は中產以下の階級を苦め、生活に餘裕なからしめ、女子も亦晏如として家庭にあることを許さなくなつた。又一面、機械の生産を助ける爲には、粗大强硬なる男子の力を待つよりも、寧ろ纖細巧緻なる女子の手か適して居る、而かも後者は前者よりも其の勞力が遙かに低廉である。斯樣な譯で、文化が進み、機械が生産の中心をなすに至つて、婦人勞働問題は必然起らざるを得なかつた。試みに之を我が邦の統計的事實に照らして見ても、明治四十年には、女子の總數約二千四百二十萬人で、女工の數は約三十八萬六千人であつたものが、大正元年には既に五十一萬五千人となり、大正六年には總數約二千八百六十萬人の女子中、女工の數が七十一萬三千人に達して居る。卽ち此の十年間に、女子の總數は約一、二倍しか增して居ないのに、女工の數は約二倍も增して居る。亦以て、文明が如何に女子をして其の本來の天職を犧牲にして、滔々相率ひて生存競爭の渦中に投ぜしむるかを察することが出來る。

斯る狀態の下に今次の大戰爭が起つた。而して或る哲學者が述べた樣に、『世界は此の大戰亂によつて隱れたる力强き手を見出した。其の手は卽ち女子であつた』。實際啻に看護とか救恤とか云ふ方面のみに止まらず、工場に交通に、農業に、軍國の女子は、女子と云ふよりも寧ろ男子として働いた。さうして立派に其の任務を果たすことが出來た。此の事が、如何に彼女の自尊と自覺とを高めたのであらうか。さうして一層其の手に握り得た所の物を、男子に奪

ひ還されざるべく、如何に頑强に抵抗するであらうか。實に一朝にして兩性の權衡を失ひたる結果として幾百千萬の女子は、其の配偶者の手を握り得ざることの爲に、必ずや夫に代るべき或る他の物を求めずには居られなくなるであらう。是れ實に彼女の生存の爲の眞面目なる問題である。斯の如くにして、今次の大戰は資本家對勞働者の階級戰を挑發したと同樣に、男子對女子の團體戰を喚び起すであらう。而して此婦人の天職の放棄、婦人の男性化が人種衛生の上に及ぼす影響は輕々に看過すべからざるものがある。

次に人口動態の上に直接の關係を有する結婚率、生産率、死亡率が大戰によつて如何に影響せられたかを見ると、先づ結婚率に就て見るに、勿論一般に著く減少した、併し英國の如きは、戰爭勃發の當初には、結婚率は却て平時よりも高まつた。所謂「戰爭結婚」なる者が一時流行した。之には種々の原因があるが、就中其主要なるものは、英國では最初徴兵を實行した際に、未婚者のみに適用して、既婚者は之を除外した。次で既婚者、未婚者同一に之を適用するに至てから、結婚の數は減少した。尙又既婚者の兵卒及び其妻に與へられたる有利條件も、尠なからず戰爭結婚を挑發したに相違ない。其の他嗣子を得んとする冀望、婦人の同情等も、多少之に干與して居るかも知れぬ。次の表は各國に於ける戰前戰後の結婚の數を示したものである。

	佛蘭西	伊太利	イングランド及びウエールス
一九一三年	二四八、〇〇〇	二六四、〇〇〇	二八七、〇〇〇
一九一四年	八四、〇〇〇	二五二、〇〇〇	二九四、〇〇〇
一九一五年	二八、〇〇〇	一八六、〇〇〇	三六一、〇〇〇
一九一六年	—	一〇六、〇〇〇	二八〇、〇〇〇
一九一七年	—	—	二五八、〇〇〇

リンドゼー教授の報告によると、英國に於ける結婚可能の年齡期に在る千人の結婚數は、戰前十箇年間の平均は一五・四であつたのが、戰爭結婚の爲に急に高まつて、一九一五年の七月より九月に至る三箇月の間の統計は、二一・八と云ふ最高の記錄を示し、

又一九一五年の全一年間の平均を見ても、一九・四に上つて居る。併し是等一時の結婚數の向上は、漸次に降つて、一九一六年に至りては既に一四・九となり、平時よりも少なくなつて居る。一九一七年には尙ほ減少して居る。

次に生產率を檢らべて見ると、既に述べた通り、諸文明國では、何れも或る年代を絕頂として、今日に至る迄遞減し來つたのであつて、例へば英吉利の如きは、一八七六年の人口千人に對する三三を最高として、一九一四年には既に二四に落ち獨逸も亦之の例に倣ひ、一八七五年の四一を絕頂として一九一四年には二七・五に下つて居たのであるが、戰爭の爲に無論急劇に之が減少した。

英吉利では一九〇五乃至一九一四年の十年の間の平均は二五・五であり、一九一四年の生產率は二四であつたが、一九一五年には二一・九となり、殊に一九一五年の七月より五月に至る三箇月間の平均は一九・五と云ふ最低の記錄を示し、其の後所謂戰爭結婚の收穫の結果一時漸く上つて、一九一六年の平均は二〇・九となつたが、次で再び降下した。獨逸のバイエルン王國の統計によると、一九一三年には二〇・七の生產率であつたのが、一九一五年には一五・八に落ち、特に一九一七年の十二月下半から一九一八年の一月上半にかけて成された獨逸の都市の生產率を見ると、伯林が九・二、ハンブルグ七・〇、ライプチッヒ六・五、ドレスデン七・九と云ふ有樣で、平時の三分の一に落ちて居る。況んや戰場となつて侵入軍の爲に暴らされた所では、一層慘憺たる結果であらねばならぬことを想像する。佛蘭西の如き、一九一五年の上半期に於て早く既に平時の二分の一以下に降つたことが、次の生產數の表によつて明かに分る。

	佛蘭西	伊太利	合衆國
一九一四年	五九四、〇〇〇	一、一一四、〇〇〇	一、一〇二、〇〇〇
一九一五年	二五二、〇〇〇（上半期の統計）	一、一〇九、〇〇〇	一、〇二四、〇〇〇
一九一六年	―	八八二、〇〇〇	九八七、〇〇〇
一九一七年	―	―	八五二、〇〇〇

試みに佛蘭西に於て一九一三年の生產率を百とす

れば一九一四年には九四、一九一五年には六〇、一九一六年には五〇、一九一七年には五五となつて居る。又戰時生産の減退は公正兒に於ては、私生兒に於けるよりも一層著しい。是れ結婚率の減少に伴つて必然起るべき問題である。又戰時には人爲的避妊が一層其の暴威を逞うする、佛國では、百年前には百の結婚に就きて四〇〇人の生産があつたが戰前には僅に二二〇人となつた。

轉じて死亡率に就きて觀察するに、歐洲各國共に兵士を除きたる一般公衆の死亡數は、平時に比して增進して居る。次表は戰爭の始まる前年の一般の死亡率を一〇〇として、夫れ以後の死亡率を比較した結果を示すものである。一般公衆死亡率が、戰爭の

	イングランド	スコットランド	獨逸(一萬五千人以上の都市)	佛蘭西
一九一三年	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九一四年	一〇二	一〇一	一一六	一一二
一九一五年	一一四	一一一	一四〇	一〇八
一九一六年	一〇五	九七	一三〇	一〇二
一九一七年	一〇五	九五	一四六	一〇六

爲に增加する原因は、一にして止まらない、例へば青年者、壯年者の大多數が戰場に出て、幼年者、老年者が一般公衆の中比較的多數を占むるが如きも、亦確かに公衆死亡率を高からしむる原因に相違ないが、其の最も重要なる原因は榮養不良にして疾病に對する身體の抵抗力減退せるに在ることは疑ふ餘地がない。

元來戰時に於ける國民の健康、疾病、死亡等のことを論ずるに當つては、戰場にある兵士と、一般公衆とを區別して考察する必要あることは言を要せぬ。近代に於ける軍事醫學の進歩によつて、軍隊の衞生は非常に改革された英國の軍隊では一八一七乃至二一年間の平均は千人につき二十一人であつたが、一九〇七乃至一一年には僅に二・六人となつた。又上記の兩期間に於ける印度守備隊の死亡率は八七人より六・七人に落ちた。又以前の戰爭にありては、武器の爲に死するよりも、細菌の犠牲に供せらるゝ者の方が四倍五倍時に或は十倍も多かつたのであるが、日露の大戰に於ては、其の關係が一變し、各國

共に吾が軍隊衛生を賞讃したのであつたが、現時の大戰に於ては夫れよりも尚ほ一層良好の好成績を示した。

然るに戰時に於ける公衆衛生は、夫れと大に趣を異にして居る。戰場に在るものは青年、壯年の男子であり、糧食の給與は充分であり、一定の軍規の下に行動し、疾病に就ても充分注意と保護とを受けるが、一般公衆は物資の缺乏殊に粗惡にして而かも分量が制限せられたる食物、過度の勞働、規律ある家庭生活の破壞、是等凡て健康に惡影響を及ぼす因子が頗る多い。之が爲に罹病率を增加し、死亡數を大ならしむるは當然である。就中現時の大戰の如き、支持戰、封鎖戰に於ては、公衆生活を脅威する最も重要なるものは食糧である。名將モルトケは、嘗て『若し獨逸國が敵の一砲彈をも蒙ることなしに破壞する時あらば、そは卽ち獨逸農業の破滅する日である』と云つて、獨逸國民を戒めたが、不幸にして此の語が讖をなして、敵の足一歩も國内に入らずして、而かも斯の大帝國は潰頽した。食糧政策に關しては、平時大に注意を拂ひ研究を重ねて居た獨逸でさへ、右の始末である。況んや獨逸たらざる者に於てをやである。大に鑑みねばならぬことである。

抑〻保健食料として如何なる養素を幾何取るべきかに關しては從來獨逸のホイト氏の示した標準が一般に準據されて居たのであるが、其後之に關する幾多の實驗的研究があり、殊に亞米利加のチッテンデン、メンデル氏等の長日月に亙つて成されたる周到なる研究によつて、ホイトの標準食は尚ほ大に節約を行ふべき餘地あるものとせられて居たのであるが、今次の大戰は、學者が實驗室内で小仕掛で行つたものを、大仕掛に試むべき餘儀なくさせたのであつた。其結果は今後幾多の材料を待つて始めて公平に判斷されるべきであらうが、兎に角、一面に於て、今次の大戰は餘儀なき場合には可なり食料を節約しても充分健康を保持することが出來るもので、チッテンデン等の研究を裏書きし得たものがあるであらう

と信ずると同時に、又如何に過度の榮養制減が、恐るべき結果を人體に齎らすべきかを事實に於て證明し得たと考へらるゝのである。

戰時中の公衆衞生上重要なる意味を有する二大疾患は黴毒と結核である。其の中、黴毒に關しては前に一言して置いたが、結核は榮養不良に伴ふ病であり、随て榮養缺乏の惡結果を計るべき一「バロメートル」として、茲に觀察する値がある。結核と榮養不良とが、如何に親密な侶伴者であるかは、英國で穀物條例 Corn law を撤回して、食料の價を低廉にして以來、著しく結核患者の數を減じたのを見てもよく分かる。扨今回の戰亂によつて、交戰國の結核患者數は著しく增加して居る。ベルナルト、マレット氏の報告によれば、英國の女子百萬人に就き、結核の爲に死するものは、一九一三年には一一五四人であつたのが、一九一五年には一二三五人、一九一六年には一二三四人となつて居る。又普國及び獨逸の都市に於ける結核患者の死亡率を見ると次表に示す如く戰爭による其の增進の顯著なるに悚然たらざるを得ない。

	普國 町	普國 村	一萬五千以上の人口を有せる獨逸都市の平均
一九一四年	三・一%	二・九%	三・六%
一九一五年	八・八%	五・四%	一〇・四%
一九一六年	一八・六%	一五・〇%	二一・五%
一九一七年	五九・五%	四一・七%	六八・〇%

一般死亡率が斯く慘狀を極むるに反して、乳兒死亡率は各國共にさして增進せない樣である。加之、英國の如きは却て減少して居る。今之に關して獨逸に於ける人口一萬五千人以上の都市の平均數を見ると、一九一三年には一四・二%、一九一四年には一五・五%、一九一五年には一五・四%を示し、一九一八年には一二・八%に下つて居る。英國では、一九一六年には九・一%で、一九〇六乃至一五年の十箇年間の平均よりも二・二%丈け低い。是れ全く、各國共に、戰爭により人口減少を補給すべく、鋭意乳兒の保護に注意した結果に外ならぬ。

以上の序述は、何れも吾人が入手し得たる外國の

新誌や報告等の材料に基づきて、大戰の人種衞生に及ぼせる結果を推定した者であつて、隨つて最近の狀情に關しては勿論未だ確實たる統計的事實を知るに由なく、今茲に之に觸れることの出來ないのを遺憾とする。併しながら之を最近の歸朝者の談話等より知り得たる所によりて想定すれば、大戰の人種衞生に及ぼせる惡結果は、啻に休戰と共に停止せざるのみならず、寧ろ益〻增大しつゝある者と考へらるゝのである。殊に敗戰國に於ける慘狀は想像の外である。最近歸朝者の一人たる高楠順次郎博士が語られる所によれば、獨逸では今猶ほ切符制度によりて甚しく食料を制限し、榮養不良、就中脂肪の缺乏の爲、骨の有機成分の不足を來たし、脆弱にして自から骨折を起す者や、甚しきに至つては、動くこと能はざる程度に衰弱せる者や、或は顏面頰部の皮膚に一種異樣の出血樣の變色を呈せる者や、頻々踵を接すると云ふ有樣で、而かも是等の人々は、少しく潤澤なる榮養物を與ふれば直ちに恢復を見るべくして、而かも容易に之を顧るの遑がないことである。又牛酪は勿論、牛乳さへ殆んど缺乏の極に達し、爲めに嬰兒の死亡する者、生產の半以上に達すと云はれて居る位であつて、如何に牛乳の貴重視せらるゝかは、博士と同車して伯林の親戚に向はんとせる一和蘭人が、其の土產として二罎の牛乳を遙々和蘭から大切に携帶して居たのが、途次荷物運搬者の不注意から罎が破壞された時、泣かん計りに嘆息したと云ふ一插話でも想像がつく。又同博士が、或る時知人なる某大學教授の家庭を訪問されたが、其の子供は榮養不良の結果、四歲にして今猶ほ立つこと能はざる狀態であつた。而かも其の頰は窪み、其の額に皺あり、一見老人の如く見ゆると云ふに至つては、實に聽くも涕の種子である。人間生れて敗殘の民となる位、悲慘のことはないであらう。

民族衞生の上に加へられたる斯くも深刻なる大戰の痛手が、果して何の時か全く癒やされるであらうか。――フランクリン嘗つて曰く、Wars are not paid

for at the time. The bill comes afterwards. 實際戰爭の社會生活に及ぼす影響は現在よりも未來に向つて一層重要なるものがあることを忘れてはならぬ。一七九二年より一八一五年に亙れる大戰亂によりて、佛蘭西人の體質は下落したと云はれて居る。少くとも此の年代に生れた兒が、丁年に達せる一八一五乃至一八三五年に於ける徵兵檢査に於て、不合格者の數が非常に多かつたのは事實である。又一八九二乃至九三年の新兵は、普佛戰爭の『戰爭兒』であるが、是れ亦體格が劣つて居る。想を玆に馳するとき、光榮ある平和だとか、世界の改造だとか、戰勝に醉ふ歡呼の裏に、Untergang des Abendlandes と云ふ書物が出版さるゝのも强ち蹂躪された獨逸國民の哀歌とのみ見ることは出來まい。實際歐米の天地には、今文明の華が咲き匂ふて居る、「アグロサクソン」は力を以て地球を征服したと心得て居る。文華固より大切である。力固より恐ろしい。さりながら、一民族の永遠の隆盛は、單に文明と力とによつてのみ保たるゝと思ふならば、夫れは大なる誤である。文明若し民族の命を繫ぐ唯一の糧であるならば、何故に世界が曾て見た最も賢き人を集めた希臘は、あの燦爛たる文華を懷きつゝ永久に滅亡したか。力若し世界を壓倒する唯一の手段であるならば、何故に世界が曾て見た最も強き羅馬は脆くも顚覆したか。「プロレタリア」とは、賤民を意味する語である。而して此の語は、希臘に於て最下級の稅務さへも負擔すること能はざる劣級者が、單に子供を(Proles)産み人口を殖やすことによつてのみ、國家に貢獻することが出來ると云ふ意味から起つたのである。而して此の一語は、實に希臘滅亡の原因に關して吾等に與へられたる最も雄辯なる說明である。活眼の史家は曾つて言つて居る。 Rome declined and fell when her „human harvest became bad" 實際男が戰鬪を厭ひ、女が出産を厭ふたことが、大羅馬帝國を覆した二大呪咀であつたのである。吾人は此の振古未曾有の大戰が、何時如何に價高き勘定書を歐羅巴の國民に持

ち出すか將た如何にして中歐諸國が此の大なる勘定を支拂ふべきかを愼重に考察すると同時に、深く人種衞生の大本に思を致して、我が邦百年の長計を廻らさねばならぬ。

叢談

飲食物による中毒

醫學博士　西川義方

飲食物及び食器その他の物品の取締に關しては明治三十三年以來法律による保護は制定されて居るが茲にはこれに論及しない、唯法律以外に團體又は個人的の豫防法を述べることにする。

一般に飲食物に因る中毒は二種別することが出來る卽ち

(甲)本來毒成分を含有して居ないが後に毒物を發生する者で「所謂肉中毒」はこれである、これを更に二つに分ける、卽ち

(イ)主として「パラチフス」菌及び「ゲルトネル」菌に因る特殊傳染疾患である。

(ロ)これはワン、エルメンゲルより「ボツリスムス」菌と名けられた嫌氣性桿菌により產出せらるゝ處の毒素による中毒であつて、これを「ボツリスムス」Botulismus(羅典語)又は「アランチアーチス」Allan-tiasis(希臘語)と稱する。

(乙)は本來當初より毒物を含有する者による中毒であつて、有毒菌蕈類、有毒植物、(例之ば木本黃精葉鉤吻、樒、烏頭、曼陀羅華、莨菪、毒芹、大芹、蔾蘆族等)及び有毒魚類(河豚等)の食用中毒はこれに屬するのである。

(甲)所謂肉中毒。

(イ)この中「パラチフス」菌及び「ゲルトネル」菌による肉中毒の豫防としては先づ是等の病原菌の侵入

經路を知悉することが必要である。この際屠獸自己の是等細菌による疾患の有無檢定は屠肉に際し注目すべき問題ではあるが、或獸醫學的衛生警察に屬する故に玆には省略する、一般には肉の調理又は貯藏に際し傳染さるゝ場合多いのであるからこれに注意せねばならぬ、卽ち「パラチフス」患者或はその恢復期患者、持續排菌者、保菌者以外罹患せる或は健康なる獸畜の排泄物、肉室貯藏室及之に棲息せる鼠族の排泄物に起因し更に蠅(バイル)氏及び蟻(ゲー、マイエル)氏の媒介又は天然氷による貯藏(コンラーデー)氏に起因するのである故是等に注意を要す。尚ほ本菌に依て起れる者は假令肉を煮沸するも唯細菌を殺すのみで既に生成せる毒素は破壞されざる故その中毒は逃がるべからず。充分煮沸せずして食用せる場合には傳染及び毒素中毒の二樣疾患を來すものである。

(ロ)「ボツリスムス」は嫌氣性細菌に起因するものなるが故に主として腸詰、燻肉、鹽漬肉又は罐詰肉等酸素の浸透不充分なる者に發育するけれども本菌自己は人類に對し何等發病的能力を有せず唯該菌が發生する毒素は人體に有毒であるのである、從てこれは前述「パラチフス」菌「ゲルト子ル」菌に因する肉中毒の如く傳染能力を有せず、卽ち眞の意義に於ける中毒である。而して本菌の毒素發生は攝氏二〇乃至三〇度に於て適溫なるも三七度に於ては既に毒發生皆無なるか若くは甚だ弱度である、從て溫血動物體內に於ては毒素を發生することが出來ない。而して一旦發生したる毒素も亦攝氏八〇度に加熱するか曹達液に遭ふて忽ち破壞せらるゝ故、煮沸食用せる場合にはこの中毒より遁がれることが出來る、これに反し前兩菌及び大腸菌に因するものは煮沸するも毒力を消失しない、これは中毒豫防上意義のある事實である。それから前型肉中毒に於ては胃腸症狀は主なるも定型的「ボツリスムス」にては胃腸症狀は全く又は殆ど缺如し、中樞性神經症狀が著明である、特に分泌及び運動障碍を起す。而して運動障碍

も腦神經配下の筋肉群に於て現はれ散瞳、眼瞼下垂、複視、嚥下困難を起す。分泌障碍として口腔及び咽頭に於て唾液及び粘液分泌止み無聲症、犬吠樣咳嗽、便祕、尿閉を起し終に心臟及び呼吸障碍を來すために往々アトロピン中毒と混ずる傾あるも本中毒はアトロピン中毒に反し毒素は中樞を侵すものである。獨逸の如きは屠肉の食用盛んでモウベレルに據ると魚肉に約十二倍し從て肉中毒は魚類中毒に約二十倍するといはれて居るが、本邦の如き四面環海魚族食用多く從て屠肉中毒に比し魚類中毒特に毒魚(河豚)中毒が統計の示すが如く頗る頻繁なるは當然のことであつて調理上の關係からも「ボツリスムス」を見ることも少くない樣に思はれる。

(乙)本來毒物を含有せる動植物の誤用による中毒

この中本邦に於て最も注目すべきは河豚中毒である、河豚毒は熱により破壞せられず煮食するも腸管より作用するから斯の如き毒魚は食せざるか少くもその內臟の食用は避けねばならぬ、魚類中「をこぜ」、「かさご」、「うつぼ」の如き有毒棘針を有するものは撮まぬ樣に注意せねばならぬ。

蟾蜍屬は捉む時に注意せぬとその分泌液は皮膚を刺戟する、有棘膜翅類の棘螫に注意を要する、蜂棘による中毒はその刺螫の局處、感受性、靜脈の傷否により甚だ異なり、僅かに一棘螫を受けて死亡せる場合少くはない、卽ち五歲の一男子が十分間で死し、左耳を螫された男子が十分でなくなり、又顏面を螫された一婦人が二十五分で死亡した例があるが他方二百有餘の棘螫を被つて尙ほ治癒した場合もある。螟蛉の毛は毒腺と連絡して依的兒に可溶性の起炎毒を分泌して脫毛に附著し來るのである。その他蠍、蜘蛛、蜈蚣が酸性毒を分泌して咬傷に注入することは周知の事實である、是等中毒の豫防は言說を要しないが毒蛇、蠍、蜘蛛等に對し免疫血清のあること丈けを述べて置く。

次に特筆すべきは本邦に比較的多き菌蕈類中毒である、本邦領域は蜿蜒として寒、溫、熱の三帶に跨

り氣候濕潤であるから世界各地に產する菌類にして普通の者は殆ど皆これを產出せざるなきが故に、從て有毒菌も亦甚多く年々夏季より秋季に致りその中毒の多いのも當然のことでこれが豫防法を講ずることは亦緊急要事である。而してこれが豫防には先づ有毒菌及び食用菌の鑑別が第一に必要である、然るに古來俗間これが鑑別點として傳唱せらるゝものは一として通則的特徵として信賴し得るものがなく、却て誤謬の原因をなして居ることが少くない、されば劈頭是等の謬說を打破することが何より必要で以下順次に是等の謬見を正して見よう。

一、襉の存在するは食用菌でこれのないものは毒菌なりとの俗說があるけれども、食菌にして襉のなきものがある例之ば「いくち」(「あみたけ」、「あわたけ」)、木茸、「まいたけ」、皮茸、松露の如し、又毒菌にして襉あるもの少なからず玉子天狗茸、月夜茸の如きものである。

二、色彩の鮮麗なる者は毒菌なりとの俗說もあるが、毒菌にして然らざる者多く、例之ば玉子天狗茸、月夜茸、土「かぶり」の如し又食菌にして色彩の鮮麗なる者も少なからず、例之ば藍茸、紫占地茸、黃占地茸、玉子茸、「ますたけ」等の如し。

三、菌を割き又は毀損する時に變色する者は毒菌なりとの俗說あるも、食用菌にして變化の起るものに初茸あり、毒菌にして變色せざるものを例證せば、一本占地茸、玉子天狗茸、紅天狗茸の如きものがある。

四、莖に空洞あるものは毒菌なりとの說も亦謬れり、卽ち毒菌にして空洞なきものに色變り、月夜茸、裏紅「いくち」等あり又空洞の著明ならざるものに一本占地あり、又食菌にして空洞あるものに網笠茸、皮茸、初茸、紅縱茸等を見るに非ずや。

五、菌質軟脆にして莖、蓋を通して縱割し得ざるものは毒菌なりといふも同じく謬說である、卽ち月夜茸、一本占地、毒杉茸の如きは毒菌にして質硬靭、縱斷し得べく、「いくち」初茸、「あゐ」茸、黑皮茸の

如きは食菌なれども質軟脆縦割し得ざるなり。

六、莖が蓋の中央に附著せざるものは毒菌なりとの説も亦否なり、何となれば毒菌にして莖の蓋中央に附著せるもの多し、例之ば蠅捕茸、赤蠅捕茸、色變り等これなり又食菌にして莖が蓋の端に偏心性附著をなせるものあり。平茸の如し。椎茸の莖は多くは蓋の中央に附著せるもその一部は周邊に附著したために月夜茸と混同せられ中毒せることあり。

七、乳液を出すものは毒菌なりとの説も信ずべからず、何となれば毒菌にして乳液を出さゞるもの甚だ多く天狗茸族皆然り、又食菌にして乳汁を出すものも少なからず、例之ば赤樅茸、乳茸等の如し。

八、味又は香の惡きものは毒菌なりとの説も通則となす能はず、例之ば玉子天狗茸、紅天狗茸等の如きは毒菌なれども好良の香味を有しそのため屢々中毒の原因となるのである。他方食菌にして惡臭を放ち或は苦味あるものあり、例之ば絹傘茸の如きは臭氣を放ち黒皮茸（岡山地方の名稱）は苦味著明なるも、川村理學博士によれば本菌は「クロッコ」（山口、廣島、土佐）、牛額（信州）、鍋茸（越後）、老人茸（愛知）、岩茸（須走）、御聖人（信州飯田）等の別名ありて毒なく「大根卸し」に混じ各地に於て食用に供せらるゝといふ。

九、蓋に粘著性狀あるものは毒菌なりといふも亦中らず、毒菌にして粘液なきもの例之ば毒杉茸、天狗茸の如し、食茸にして粘液著明の者あり、榎茸、扇茸の如し、（一般に菌類は濕潤せる時は多少粘液狀を呈せること多し）。

十、銀匙又は銀貨と煮てこれを變色するものは毒菌なりといふも赤蠅捕茸の如き毒菌にしてこれを變色せざるものあり。

その他茸類と共に煮たる葱の黒變又は食鹽の黄變等を以て毒菌の徴となす等諸種の方俗あるも、要するに何等の憑據なきものとす。即ち一言これを蔽はん乎吾人は今日毒菌に對し信頼すべき概則的識別法を樹つることは不可能事である。唯エドムンド、ミ

ケールと共に斯の如き方俗的規則に對しては佯笑を呈するのみである Ein Pilzkenner hat für solche Regeln nur ein Lächeln (E. Michael) 然らば如何にして今日吾人が菌蕈誤用より逃がれ得べきやといふに、先づ有毒菌と目すべき者を知り比較的これと誤り易き食用菌との鑑別點を見出すのである。卽ち一般に蓋襉、鍔、壺等の形狀、有無、色彩等の外觀により大約これを識別することが出來るものであるが、これが記載は到底本論で簡說することが出來ないから、近く別に發表することとし茲には單に本邦に於て注意すべき有毒菌の名稱を列擧するに止める。乍併豫防法として是等毒菌は如何なる食菌と誤られて中毒する者であるか類似食菌と對照甄別することが必要であるから、これは是非近々發表する拙著と對照して戴きたい。

本邦に於ける主要なる有毒菌名稱

一、玉子天狗茸　Amanita phalloides. Fr. (Agaricus, phalloides, Amanita bulbosa Bull. Knollenblätterschwamm, Knollenwulstling, Giftwulstling, Schierlingspilz, Oronge signe, Death-cup fungus.

小玉子天狗茸　Amanita mappa Fr.

二、紅天狗茸(別名、赤蠅捕茸、足高紅茸)　Amanita muscaria Fr (Flie-genpilz, Fausse oronge, Fly Fungus.)

三、天狗茸(別名、蠅捕茸、豹茸、蠅とまらず、蠅殺し、蠅捕占地) Amanita pantherina, Dc. (Pantherschwamm, Krotenschwamm, Oronge dartreuse od. Golmelle fausse.)

四、一本占地茸　Entoloma sinnata

五、毒杉茸(別名、汗茸) Inocybe rimosa, Bull. (Hebelloma rimosa, Fr. Riesspilz.)

六、色變り(別名、「たはたけ」、「あみたけ」、「あゐたけ」、「おせんころし」) Boletus luridus Schäffer (Schuster-, Hexen-, Donner-, Feuer- Blut- od. Schweinpilz, Faux ceps oder Oignon de loups.)

七、嘔紅茸 Russula emetica (Agaricus emetica, Speiteufel, giftiger Täu- bling.)

八、土かぶり(別名、地割り) Lacrarius piperatus Scop. (Pfeffer- Milchling.)

九、から初茸　Lactarius torminosus, Schaeff. (Giftreizker, Gift- milceling.)

十、火傷菌　Clitocybe acromelalga. Ichimura.

十一、月夜茸(別名、「くまびら」、(四國、中國、鹿兒島)、「わたり」(紀伊、大和)、「くまべら」(大阪、秩父)、「なめき」(畿內)、「どくかたは」(富士、信濃) Pleurotus japonicus, Kawamura.

十二、鞍茸 Helvella esculenta L. Pers. (Lorchel.)

十三、やなぎ茸(別名、苦杉茸) Hypholoma fasciculare Huds.

十四、毒つる茸　Amanitopsis virosa

十五、裏紅いくちBoletus satanas Lenz.(Satanspilz Satansröhrling.)

從來毒菌中に編入せらるゝも毒性の有無尙ほ疑しきもの。

一、狐の松火(別名、狐の畫筆、鬼筆) Ithyphallus rugulosus.

二、鼈茸 Ithyphallus impudicus, L.(Stinkmorchling, Gichtmorchel.)

三、狐の繪畫筆 Mutinusbonniensis E. Fisch(M. bambusinus Zoll.)

四、狐の蠟燭 Mutinus canius E. Fisch

五、やぶたけ Agaricus cinnamoneus,(Zimtblätterschwamm.)

六、Agaricus glutinosus,(Schleimschwamm)(邦名未詳)

七、Agaricus tranatus,(Lilaschwamm.)(同上)

八、Agaricus rufus,(rotbronne Milchschwamm.)(同上)

九、Agaricus pyrogalus,(beissender Blätterschwamm.)(同上)

十、Agaricus capkoides,(Bitterschwamm.)(同上)

十一、Agaricus lactarius insulsus,(weissmilchender Giftreizker)(本邦に於ける存否未明)

十二、Russula ochrolentá,(gelbe Täubling)(邦名未詳)

十三、「いんき」茸 Agaricus stramentarius,(Tintenschwamm.)

屢〻毒菌に編入さるゝも食用し得るもの。

一、絹傘茸(竹蓀) Dictyophora phalloidea Desv.

二、さゝくれ一夜茸 Collynus comatus(Agaricus comatus, warziger Schopfschwamm.)

三、紅茸 Russula rosaces,(Rosentaubling)

尙ほ菌中毒豫防として一般に菌類はその有毒菌たると食用菌なるとに論なく蛋白質及び水分に富み容易に腐敗し易く又は細菌の培養基となり易いのであるから、新鮮なるものを選ばねばならぬ。又陳舊腐蝕せる菌にてはヒヨリンよりノイリンなるムスカリン様の生理的作用を有せる物質を生ずることありといはれて居る。從て新鮮狀態にては比較的無害なるアルカロイドを含有する菌が腐敗により猛毒性物質に變ずるといふ說もあるのであるから旁々腐蝕菌は避けねばならぬ。然し鞍茸の樣に反對に新鮮の場合には有毒で數日放置(市場品として)すると毒作用が消滅するといはれて居るものもある。

次に菌類は常に煮沸して食用に供し決して生食してはならない、卽ち煮沸により一定度迄或種の刺戟物質又は毒物の作用を防止することが出來ることあり。　例之ば、刺戟性乳汁を分泌する菌にてはその儘の狀態では樹脂樣物質は微細乳化狀態に存在して居り從て直ちに胃腸刺戟症狀を發するが、煮沸した場合には該物質は熱のため癒合し塊狀となつて腸液の

溶解する處とならずして排泄され中毒せざることがある。土かぶり、からはつ茸は斯の如き樹脂樣物質を含んで居る、又玉子天狗茸の中に含有せらるゝ毒物の一つであるママニタ、ヘモリジンは熱のために破壞されるのであるがママニタ、トキシンの猛毒性には影響しない。

又菌の煮汁は捨つべし、鞍茸の如きは煮沸してその煮汁を捨てると中毒しないといふことは屢〻人の言說する處である。又菌は乾燥したり又は越幾斯にすると常に無毒であるといふことは出來ない。加察加產赤蠅取茸は適例である。

本邦では必要がないが尙ほ注意すべきことは培養菌茸と雖も絕對に安全なるものではない。何となれば原茸の培養中に猛毒な玉子天狗茸が混在することもあるからである。

次に高等植物中本邦中毒統計に表はれ比較的屢〻見るものは、

毒空木(別名、木本黃精葉鉤吻又は(一郞兵衞殺し) Coriarria japonica

曼陀羅華(別名、「きちがひなすび」又耆婆草) Datura alba

莨菪(別名、「おめきぐさ」、「ほめきぐさ」、(大和)、「はききやう」(武藏)、又「はしりどころ」) Scopolia japonica

烏頭(附子) Aconitum japonicum

樒(莽草) Hlicium religiosum(anisatum, Sternanisbaum, Anus étoile star-Anise.)

等にして毒空木及び樒はその果實を誤食し曼陀羅華の實は唐胡麻と誤り、莨菪、烏頭はその塊根の誤用により猛烈なる中毒を起し屢〻致死に至るのである。

その他大芹 Cicuta japonica 毒芹 Cicutavirosa の塊根を誤食し蒜藜蘆 Veratrum album,(Niesswurzel.) 又は藜蘆 Veratrun nigrum の根莖を食して中毒することがある、商陸 Phytolacca acirosa を毒草となせるは牛消皮 Cynan-chum candatum と混誤せられた故である、商陸は多量の硝酸加里を含める以外に特殊の毒物を認めず、その他毒草を枚擧すれば甚だ多數なり。これも菌蕈類と併せ不日詳報の機會を捉へたいと思ふて居る。

育兒

先づ愛兒の體質を知れ

醫學博士　柳瀨實次郎

柳瀨博士は日本兒童協會の育兒講話に於てその冒頭に左の如く述べられました。

子供の育てかた扱ひかたと一くちに云つても、決して萬人にあてはまる一定の規則があるわけではない。從つてどの子供も同じやうに扱ふわけには行かない。生れ付き丈夫なものを、弱い子供を育てると同じ方法で取り扱へば、本來丈夫な子供を却つて弱くして仕舞ふ。それと反對に生れ付き弱い子供を丈夫な子供同樣に取り扱へば、效果が擧らないばかりか猶弱くして仕舞ふ。子供の體質により取扱ひ方も當然かえなくてはならない。丁度同じ器物でも鐵製のもの銅製のもの硝子製のもの、各々扱ひ方が違ひ、よくその品物の性質を確かめて、それぞれ違ふ扱ひ方をしなくてはならないのと同樣である。

普通素人の一番しくじり易いのは、單に同年だと云ふだけで、自分の子供は生れ付き弱いたちであるのに、他の丈夫なたちの子供を羨ましがつて、丈夫な子供にだけ適する育兒法をそのまゝ應用し、思はぬ不結果に驚くと云ふ事が多い。

一體體質に依り千差萬別の育兒法があるけれども、大體別けて二つにする事が出來る。一つは積極的育兒法で硬敎育と云ふべきもの、今一つは消極的育兒法で軟敎育と云ふべきものである。硬敎育を要する子供を草木にたとへて見ると、雨にも風にも容捨なく晒し、日光にも露霜にも思ふがまゝに當てる事の出來る山野の草木のやうなもので、軟敎育を要する子供は、雨にも風にも用心して一定の溫度を保つ溫室に育てなくてはならない草木に似て居る。

生れ付き丈夫な子供は、時に雨ぬれるもよからう。風に當てるもいゝ。夏は水に飛び込んで游がせるのも差しつかへない。充分硬教育を施して丈夫な上にも丈夫に鍛錬すべきである。然し弱い體質の子供にその眞似をさせたら大變だ。さう云ふ子供はなるべく冷い風に當てないやうに、細心の注意を拂ふ必要がある。

例へば自分の子供は弱い生れ付きなのに、丈夫な子供と較べて見て、何でも澤山ものを食べさせれば良いと思ひ違へ、弱い子供に大食させて胃腸を損はせ、重い腸胃「カタル」で取り返しの出來ない結果になつたりする。是等は我が子の體質を知らずに居たが爲に、折角子を思ふ親心が却つて仇になつたものと云ふべきであらう。

それではどうして我子の體質を知るべきかと云へば、幸ひ我が大阪市には日本で最初の兒童相談所がある。あそこで見て貰へば我が子は如何なる體質のものか硬軟いづれの教育法に依るべきかと云ふ最も根本的な育兒の方針をきめる事が出來る。その他小兒科の醫者とか、醫學的知識のある友人知己に賴んで、何よりまづ我子の體質を知るのが育兒の第一歩であらう。

體質を知つてからでないと、雜誌新聞の記事を參考にする時にも、とんだ間違ひを起す事が少くない。私自身の出逢つた例を擧げると。昨年の夏まだ誕生前の子供が腦膜炎を起したと云ふので行つて見ると、もう隨分の重態になつて居た。段々樣子を訊ねて見ると、ある婦人雜誌に、日光浴が大變良いと云ふ記事があつたので、すぐ應用して愛兒を行李に入れて二時間日の照る所に出して置き、充分に日光浴をさせたと云ふ事であつた。激しい日光の直射熱は到底弱い生れつきのこの子供の堪え得る所でなく、重い腦膜炎をひき起したのであつた。

勿論その婦人雜誌に日光浴の效果を述べた人の眞意は、決して萬人に悉く有效だと云ふのではなかつたので、丈夫な生れ付きの人に日光浴の良い事も確

かな話である。この例なぞも日光浴そのものか惡いのでは勿論なく、その記事を、掲載した雜誌にも罪はない。たゞ我が子の體質をも考へずに、輕卒にそのまゝを實行した母親の不用意に起因する。

先づ第一に愛兒の體質を知つて、その後に各種の書籍雜誌を參考にし、誤りなく賢く、眞に我子を受し、愛するが爲に損ふ事のないやうに心がけるのが、人の親としての務でもあり誇りでもあらうと思ふ。

子供を失つた經驗

醫學士　淺田　一

私は昨年六月六日滿一年九ヶ月になる男兒を失ひました。莊司さんから何か書けと頻に御催促で御座いますから此の悲しい經驗を書いて一は以て皆樣の御參考に供し他は以て責を免れやうと思ふので御座います。

私の亡兒は二男として生れました。兄の方は非常に注意して御乳は三時間目にしかやらぬ、寒い日には風にあてぬ、齒が生えても堅いものは食べさせぬといふ風に育てました所が非常に弱くて初は腸が惡くなり勝でありました。祖母の丹誠でだん／＼胃腸は丈夫になりましたが呼吸器が弱く風をひき通しですぐ肺炎になつてしまひます。今倘肺炎になり勝で御座いますが命だけは助かつて居ります。二男の方は生れた時三八〇〇瓦即一貫八十匁もありまして其後の發育もよろしく兄とは違つて至つて丈夫で御座いましてマル／＼と肥つて居りました。死ぬ前頃には既によく歩きまして單語は大分喋れる樣になり食物も何でも戴く樣になつて居りました。死ぬ前の日は朝など私は勤めに出る前に二男を抱き上げて其健康を祝福して居たのでした。所が其日の晝過ぎ勤先へ電話で熱が出たが如何せうといふ知らせがありました。三十八度位の熱發は二男の方でも之迄數回ありましたがすぐに治つたものですから氣にも止めず木澤病院の吉田先生に御願したらよからうと申し

ておきました。その日は私は少しおそく歸りました。吉田先生は一度來診して下さつて洗腸せられ下剤を下さいました。子供は時々物に驚いた樣に身振ひをしました。熱は三十八度を突破し九度九度五分を上つて來ました。其夜吉田先生はまた來診して下さつて警戒を要すると申され洗腸、下剤等何度も處置して下されましたが洗腸液には少ししか粘液も出ませぬ。唯小豆が少しも消化されないで何度も出て來ました。子供には食物は何も與へず唯「リチ子」油をやつたりお茶をやつたりした丈であります。「マンマママンマ」とやかましく請求するのをじつと堪へて何もくれてやらなかつた苦しさは大抵ではありませんでした。氷枕、氷嚢で頭と心臓とを冷し足を湯たんぽで暖め、「カンフル」注射、「チガレーン」注射などして頂きました。夜中に症狀が少し靜まり三十八度位に下りましたから吉田先生に歸つて頂きました。しかし翌朝未明から又來て下さいまして食鹽水の皮下注射などして頂きました。之がすんだのは七時過でしたがこの時分から症狀はまた非常に増惡し九時頃からは目が白く上釣つてしまつて意識は全く溷濁してしまひました。それから何本とも知れぬほど「カンフル」、「チガレーン」を注射し芥子泥で胸を暖めたり樣樣の手當をして戴きましたが、遂に午後一時過死んでしまひました。實に發病を氣附いてから二十四時間目に死んだのであります。而もそれまでは非常に丈夫である事を誇に思つて居た二男の事でありますからその後暫時の間は茫然としました。この病氣は疫痢といふ恐ろしい病氣であつたのであります。

疫痢はまだ原因もはつきり解らないのであります。何といふ黴菌が原因であるか判然せぬのであります。然し私は次の樣に考へて居ります。最も私は小兒科醫の知識がありませぬから小兒科の先生方は御笑なさるかも知れませんが私は確信してゐるのであります。

第一疫痢は時候の變轉期殊に初夏とか盛夏とか初秋の候に多いのであります。私は殊にむし暑い日の

あとなどに起るのでないかと思つて居ります。私の二男の死ぬ日も其前日、前々日なども随分蒸暑い日でありました。六月初でありましたが盛夏の様な暑さでありました。第二にかういふ時には子供は蒲團夜著など脫いでしまつて腹を出しそれが爲に却て腹が冷えるものであります。腹が少し冷えた時などは腸の中の細菌が増殖するのに好都合であります。恐らく普通に存する大腸菌の様なものが少し腹の冷えた機に乘じて大に増殖するのかも知れません。體溫の上昇は細菌の發育を阻止しますが少しの降下は却て之を助長するのであります。之だけならば別段疫痢にまでならずに濟むかも知れませんが第三の因子として大抵は食傷があるのであります。普通健全の胃腸でも餘り感服出來ぬ様なものがこの際に食はれてゐる事が多いのです。私の場合には隣の婆さんが小豆の粒の入つてゐるモナカといふ菓子をくれたのであります。之が丁度家内が子供を留守の婆やに託して一寸外出した間の出來事です。無責任な婆やは隣の婆さんが愛想にくれたモナカを二つ食はしたのであります。洗腸して小豆が澤山出たのでも判ります。かやうな腸の違和に際して不消化物が參りますと茲に異常の醱酵が起り有毒なる醱酵産物を生じ急性の中毒を喚起するに至るものと見えます。

そこで一つ自分の不注意を告白して皆様に是非守つて頂きたい事があるのであります。それは自分の愛兒は一刻も自分達の目から離してならない事であります。常に兩親の一人で見て居てやらねばならぬ事であります。私の子供には三つの不注意な原因がありました。其第一は蒸暑い時に寢冷え知らずを著せてやらなかつた事であります。寢冷え知ちずを著せておけば少々夜著を脫いだからといつてお腹の冷えるものではないと思ひます。其第二は女中に托して外出した事であります。その間に隣の婆さんから小豆粒入りのモナカを貰つたのであります。食ふより外に何事も考へない子供は親の監督のない所で之をたべるのは當然であります。我々の一人が居れば

さやうなものは食はさなかつたのであります。第三に私が子供の病氣には直に「リチネ」をやるべきだといふ事を家内にいひつけておかなかつた事であります。今迄丈夫であつたので油斷して居て左樣な細い注意を缺いて居た事であります。之が爲に子供は遂に死んだのであります。親の不注意の爲に子供がチヨコ〳〵外へ出て自働車や電車に轢かれて死んだ時に親は如何に寢醒の悪い事でありませう。私の場合は之と大同小異であります。つまり私共親として充分なる注意を怠つたが爲に子供を取返しの付かぬ病氣にかゝらしたのであります。

世の中にはなすべき事となるべき事とあります。なすべき事とは人力で奮闘し得る事であります。人間として生を此世に受けた以上なさねばならぬ事であります。なるべき事とは如何に人力を用ひても如何ともする事の出來ないものであります。天候の變化や地震などは人事を盡しても如何とも出來ぬものであります。今迄はなるべき事だと思つて居た事が學問の進步と共に段々なすべき事に變つて參ります。凡て災害などといふものは人が協力して注意すれば殆んど全く豫防出來るものであります。病氣といふものもさうであります。病氣はなすべき注意を怠つた天罰として起るものであります。遺傳病は自分の罪ではないが祖先が充分注意しなかつた罪の報いであります。後天性の病氣ならば全部自分の不注意から來るのであります。所が子供の病氣は親の不注意から來るのであります。私は子供を失つたけれども天を恨みません、隣の婆さんも恨みません。自分の不注意を心の底から悔いて居ます。子供の死んだ責は實に吾々兩人にあるのであります。子供を失つた人々は今後益々御注意なさらねばなりません。さやうな經驗のないお方も大に注意なさらねばなりません。無常の風は何時御宅を見舞ふかも知れないのですから。然し不斷の注意は無常の風などに屈服するものではありません。子を持つ親御達は毎日子供の脈と呼吸と熱とを檢査して少しでも異常があれ

ば直に先づ「リチ子」でも服ませて醫師の來診を仰ぐべきであります。一刻もおくれゝば永久取返しのつかぬ事になります。子供の健否生死は一に父母殊に母の注意如何に係つて居るといつても過言でないと私は信じて居ります。重ねて申します。自分の子供は丈夫だからと安心をしてはなりませぬ。油斷は大敵であります。今年になつてから私の友人は三人までも二年乃至五年の御子樣を疫痢で失はれました。何れも平素丈夫な方ばかりであります。

家庭衛生

卵に就て

醫學士　淺田　一

淺田學士は國家醫學雜誌上に「生理と經濟とより見たる食物」と云ふ頗る有益な一篇を連載せられて居りますが、これは其中の卵に關する一章であります。

卵の構造

卵殼は主として石灰及び「マグ子シウム」鹽類より成つて居る。卵白は水、蛋白、灰分及び少量の脂肪より成り卵黃は水、蛋白、脂肪及び灰分より成つて居る。卵殼と卵白との間には二層の膜がある。甲は殼の直下にあつて全卵を蔽ふ硬膜である。乙は硬膜の內方にあつて卵白を蔽へる軟膜である。卵黃には後來雛になる所の胚といふものがある。之が俗に卵の目と云つて居るものである。卵は卵巢の中で出來、輸卵管を通つて生れて來る間に、殼に包まれるのである。この殼の色には白いのと少し赤味のかゝつたのがあるがこの色の相違は別段に中味の化學的組成とは關係がない。殼は主に炭酸カルシウムから出來て居るので食物にはならぬ。卵膜もゼラチンで出來て居るから食つても消化せぬ。此膜は生卵を割る時には殼に付いて居るが茹卵では殼から離れて中味の方に附著して居ることが多い。併し

通常之を剝ぎ取つて食べる。卵は大小不同で小は七匁位から大は十八匁に達し平均十四匁位である。

組成

卵は乳と同樣多量の水を含み、主成分としては蛋白、脂肪及鑛物質類であるが澱粉質を含まぬ。

	水分%	蛋白%	脂肪%	灰分%
鷄卵	七三・六三	四七・四六	四五・六七	四・〇六
鵞卵	七〇・八一	四三・七六	五一・五四	四・七〇

卵白は數種のアルブミンから成立つて居る。其内最も重なものはオウアルブミンである一般には卵白が純粹のアルブミンである樣に云はれてゐる。卵黄の中にもいろいろの蛋白がある。其外に澤山なヴィテリン及レチチンを含んでゐる。是等は胚の發育に必要な燐を供給するのである。卵の脂肪は主として卵黄の中にある。牛乳と同樣に乳劑として存在してゐる。この卵黄の脂肪の中にヴィタミンが溶解して存して居る。之は脂肪に溶ける處のAと云ふヴィタミンとして知られてゐるのであつて身體の成長及發育に缺くべからざるものである。卵黄の色素はルテインと稱し脂肪に溶ける。この色は幾分か鷄の食物の性質と關係があるらしい。卵黄の色の薄いのは鷄の餌に葉綠素を含んでゐるものゝ少なかつた場合に起るものと考へられてゐる。卵の灰分の重なるものは燐とカルシウムと鐵と硫黄とである。卵黄の方は卵白よりも是等の物質に富んでゐる。是等は鷄の血液、骨及筋肉の形成に重要なる役目をなすものである。卵の食用に供せらるゝ部分は平均〇・〇〇三〇%の鐵を含有してゐる。かく卵の鐵分が多いから小さな小供の食用に卵が重んぜられるのである卵の硫黄は主として卵白のアルブミンの中にある、之が爲に卵が腐ると硫化水素を生じ惡臭を放つのである。

榮養價

卵の平均の大きさのものは七十五「カロリー」程の熱量を出す。中等大の卵八個重さ約一「ポンド」の熱量は六百七十二「カロリー」であつて同じ重さの牛乳

の約二倍、脂肪のない肉の一「ボンド」よりは僅に少ない位の熱量である、今日の様に物價が高くなつては卵は餘り安いものではないが現今の相場で他の蛋白質と比較すると、最も經濟的であると云はねばならぬ。

近頃鷄卵が大變珍重せられたが之には別段鷄卵に勝る點がない。而も價が非常に高いから結局甚だ不經濟なものと云はねばならぬ。

消化率

卵の消化は槪して良い、殆んど全部消化されると云ふてもよい。其消化されない部分は卵黃を包んで居る卵黃膜位なものである。實驗上半熟の卵は堅く茹た卵よりは消化し易いことが證明せられて居る。適度の熱は**アルブミン**を柔にシドロ〳〵にするが強く熱すると堅くなり消化液の侵襲に際して抵抗する樣になる。最も堅く茹た卵でも少し時間が長くかゝるだけの違で全部消化されるのである。生の卵でも能く消化されるが之は半熟と過熟との中間に位する。

貯藏

卵は蛋白質の源として有難いものであるが唯腐敗し易いことは「玉に疵」である。腐敗は細菌によるのだがこの細菌の侵入は卵が輸卵管を通る間卽ち未だ殼で蔽はれない間に既に混入し得るのである。生れてからでも殼に小さな穴があるので細菌は之より侵入し得るのである。それで腐敗を防ぐには卵殼に附著して居る糞の樣な汚いものを洗ひ落すのであるが此際殼が濕ふと細菌が入り易くなる恐がある。最良の方法は細菌の發生に都合の惡い冷所に貯へることであるが之は一般の家庭では行ひ難く。家庭で行ひ得る方法としては十「パーセント」位の食鹽水中に置くことを奬める。食鹽水中では細菌は發生しない。少しは卵の中に食鹽水が浸み込むがどうせ味を付けるのだから別に差支はない。第三の貯藏法は水分を取つてしまつて粉末にすることである。近頃**コナタマゴ**として賣出して居るのは之れである。運搬の間

に多少破れたものなどは**コナタマゴ**にして置けばよい。

新舊の鑑定

第一卵の兩端を舐めて見ると新らしい卵は尖つた方が冷たく鈍端の方が暖に感ずる。之れ鈍端の方には氣胞があるからである。然し腐敗すると氣胞の位置が變るから兩端とも同じ溫度になる。第二に光を通じて卵を見て中の暗いのは腐つたものと認めるのは卵屋のやつて居る鑑定法である。第三に卵の平均の比重は一・〇九〇であるが古くなると水分を失つて而も容積が同じだから輕くなるから之を六「パーセン」との食鹽水に入れて見て浮ぶものは古い卵と認めてよい。澤山の卵を購入する場合一度に新舊を鑑定せるには六「パーセント」食鹽水に投ずるのが最もよい。

選擇法

商賣人は新舊、外觀、大いさ、綺麗さ、色澤で評價する。極く新鮮な卵は内容が充實して居り卵白はどろ〳〵して居り先づ無菌と認められる。卵が生まれると直に水分が殼の穴から蒸散し初める。殼の中の氣胞が大きくなる。水分の蒸散が更に進むところの氣胞内に微生物が集り醱酵を促し腐敗を醸すのである、新舊鑑別は前項で述べた通りである。殼を振つて見て充實せらるならば新らしい、ガラ〳〵するならば古いと認めるのも簡單な方法だ。殼の疵のあるのは腐敗し易いから安價である。しかし新らしいことが確ならば之で澤山だ。汚ない殼の卵は腐り易いからいけない。卵殼の色の違ひは中味と關係がないから價の安い方を買へばよい。大小は價の通り大きい方が内容も多い譯である。

主婦の任務（承前）

メリー、ルイス、フースト

第七章　移轉及入居

一、移轉及入居には、出發の時と到著の時とに於て、

運搬上非常な手練と巧みな計畫とを要する、つまり家屋管理人や手傳ひ人の方では出來るだけ尠ない費用ですませる樣にし、又家族に對しては心配なく身體に故障の起らぬ樣出來るだけ混雜を避ける樣にせねばならぬ。

二、計畫の中には左の事柄が必要である。

(1) 新らしき住宅に假りに家具敷物の位置を定めて一つの縮圖を作成する事。

(2) 運搬される道具類の覺書については左の條項について誌すべきである。

(い) 不用の品か、或は必要の品か。

(ろ) 運搬車又は馬車の容れ得る必要なる面積。

(は) 荷造り及び荷解きの順序。

(3) 運搬に關する事は前以て準備し置く必要がある。

三、不必要な品物の處分については、若し(い)殘して置くならば、相當の保存方法を講じ荷造りし、清淨を要するもの、冷藏を要するものは然るべく取計らひ價格などにも注意を拂ふべきである。(ろ)古物の家具、皿類及銅器、衣服及寢具、書籍又は紙類其他物置のガラクタ類に最後の處置を取るのは、甚だ容易な事である。卽ち賣却するのである。

四、順序よく荷造すれば、荷解きして据え代へるに手數が省ける。

(1) 荷造りする時は、割合に用られない品物から始めて、一番用ひられる品物に及び、荷解きの時は丁度其反對にする。

(2) 豫め洗濯器は拂拭し、又は包みをして置くのは、甚だ利益がある。

(3) 壞れ易き物、或は長途の運搬には、餘程巧妙な荷造りをする必要がある。

(4) 籠類は此の際重寶である。樽又は特製の箱は又中々用途が廣い。

五、新に家を持つに必要なる準備は左の如きことである。

(1) 家を消毒する必要がある。或場合には專門家に賴まねばならぬ事もある。

(2) 藥品又は機械を用ひて、害蟲驅除せねばならぬ。

(3) 塵埃取除の準備及壁又は天井等に塗る白堊水の用意。

(4) 掃除するについては(い)掃除人のために先づ食物、食器、燃料其他を準備する事(ろ)塵埃を掃き出し、よく拂拭し汚點等を取り去る事(は)而して始終注意して建具等を損しない樣に心懸ける事を要する。

第八章　供給

一、物價の騰貴は今や諸物に及び、或物の如きは、三四十年間に二倍又は三倍に昇つたのである。

(1) 其原因は不平均な生産にある。

(い) 農業は依然として保守的なるに反して、

(ろ) 人工は、食物の供給に伴はずに増加し、

(は) 一方では自然の資源は空費しつゝあるが故である。

(2) 製造工業は非常に進歩した。けれども一方では、餘りに不注意で又不衞生である事もある。又特許品、特許法によつて與へられたる特權は、間々度を過ぎて、他の發明及賣買の妨害となる事すらある。

(3) 販賣價格は、必要的に、或は不必要的に、左の條件によつて騰貴する。

(い) 供給及風潮より來る經濟的壓迫。

(ろ) 廣告及販賣係の巧妙――即ち常に購買人の無智を利用する事によりて。

(は) 價格に關する信用程度。

(4) 僞物及代用品等は一部分が食物に關する法律及商標によつて看破せらるゝのみである。

(5) 分量や重量や包裝を胡麻かす樣な事は、隨所に行はる。

二、浪費の取締り。

(1) 收入が尠なければ、愼重な態度を取る機會を多くする。

(2) 必要中の必要をよく考へて買物の選擇すると云ふ事は吾人に幸福を齎らすものである、

(3) 不滿足なものを排して。

(4) 尠少な費用で心に合つた物を得る事を研究するのは甚だ愉快な事である。

(5) 又目前の事に齷齪せず高遠なる理想を基として考へれば、心は裕かになる。

三、購買上の原則。

(1) 羅馬人の言つた「買手は用心」と云ふ語は、今でも賢明な忠告である。

(2) 使用に堪えると云ふ點に於て、自製の衣服及食物は好くて而も低廉に出來る。

(3) 品物によつては製産者と約束して購買するもよい。

(4) 分量によつて値段の割合を左右する事が出來る。升で量るよりも、衡で重さを標準とした方がよい。家庭に度量衡の器具を取揃えて置けば不正の豫防にもなるし、正直の奬勵ともなる。

(5) 家に貯えてある物品の種類、其品物は用ひられるか、用ひられぬか、損じて居らぬか、揃つて居るか、と云ふ樣なことは、主婦の腦裡に明瞭に印せられて居られねばならぬ。

(6) 食物の良否等は家で試驗して見る必要がある。

(7) 商標を調べて、製造元を問ふなども心掛けて居てよい。

(8) 流行、勸誘、其他安物等に動かされぬ爲には、高尚な趣味と、知識、及び「安物買の錢失ない」と言ふ事を善く知る事の

出來る尊い經驗を持たねばならぬ。

（9）素人の買物も、黒人筋の買物も共に隨時參考となる。

（10）合衆國に起り次で他國に於ても成功せる、購買倶樂部 (Purchas'ng clubs) 及消費組合 (Co-operative stores) 等も注目すべき價値がある。

（11）購買上の特種な知識を有すると、巧みに迅速に時期を見計らつて買込みをする事が出來る。

第九章　食物

一、主婦は家族の養生に關して大責任を有せねばならぬ。故に主婦は次に述ぶる條項を了解するを要す。

（1）各種の食物の、成分及消化程度。

（2）健康保持及勞働に堪え得るに要する食量。

（3）時候や場合に從つて加減をする事。

（4）小兒、病人及老人に對しても加減する事。

（一）成分に關しては。

（イ）主婦も教師も、或る食物に於て、蛋白質、含水炭素、脂肪、鑛物鹽類及水が如何なる關係にて存在すべきかを知り居る必要がある。

（ロ）經濟上及滋養上各種の食物を比較研究する必要がある。例へば、肉と卵と、卵と乳と、乳と乾酪と、乾酪と肉と、肉と豆、豆と穀物、穀物とパン、穀物とマカロニーとの比較、或は穀物中の各種の比較、直ぐ食せらるゝ穀物と料理して食用とせらるゝ穀物との比較、果物と野菜との比較及果物と胡桃との比較等である。

（二）分量に關しては。

（イ）分量に關する原則は、各個人を精細に試驗して得たものであるけれども、猶加減せねばならぬ餘地がある。

（ロ）大體の分量の原則は、いづれの家でも定めて置くと便利である。そして日々表はれて來る現象とその原則とを比較して訂正するのもよい。

（三）アトオウーター氏(Atwater)及チッテンデン氏(Chittenden)の、飲食規定を比較研究すれば、其原則を變轉自由に活用し得る。

（四）小兒の爲には。

（イ）一定の滋養物を充分に與へて、成長と活動の資とせねばならぬ。

（ロ）如何なるものは與へてはならぬかと云ふが如き判斷は是又重要な事である。

二、獻立は一分に於て食品の材料に關する知識の表現であるが、又一方に於ては、料理に於ける想像力と獨創力の表現である。

（1）料理の一般的原則は二三時間で習得し得るものであるが、眞の手腕は實地研究に據るのである。

（2）巧みに配合調理された晩餐の如きは、家族一同にとつては一つの慰安、感激である。此の如き獻立は將來の參考の爲

に記錄し置く可きである。

(3) 獻立は、科學的でなく、むしろ氣分、味感を主として造らるゝが常である。故に吾人は、不消化物に對して後に拂はねばならぬ代償の如何に大なるべきかを知らねばならぬ。

(4) 適當に貯藏し、又は殘り物を巧に用ふれば、大に經濟的に行く。

(5) 料理人又は香味を用ふる上で、僅か目先きを變えれば、單調を避ける事が出來る。

(6) 外國の料理法や、精進料理は吾人に色々な暗示を與へてくれる。

(7) 一日一人十二仙乃至七十五仙の獻立が先づ普通で有らう

三、食物の加減と給仕の仕方は料理法の巧なのと同樣に滋養上の間接の助となる。

第十章　家屋の手入

一、清潔法

(1) 貯藏庫、冷藏庫、臺所道具類には、特別に手入せればならぬ。

(2) 時間割を造つて、每日、每月、或は每週の掃除を規律正しくする必要がある。

(3) 洒掃に關する費用の中には、諸種の項目がある事を忘れてはならぬ。

(4) 日光は最良の清淨劑である。

二、塵埃は、家の中で最も普通な有害物或は危險物である。

(1) 塵埃は、家內の道具の配置や備付に一寸注意すると、容易に其機分を避け得るものである。

(2) 塵は、掃拭、粘着、排出、又は吸收等の方法を用ふれば順序的に除く事が出來る。

三、通風

(1) 惡い空氣は、身體の機能に重大なる影響を及ぼす。

(2) 清淨な空氣は、惡を追ひ拂つて、善を引き入れると思へばよい。

(3) 家內の空氣と窓外の空氣とは、有用成分に大變な差がある。

(4) 一秒一人の人が呼吸する空氣の量の如何によつて、各人に必要なる空の廣さ——立方呎の最小限を定むべきである。

(5) 家內の通風は、至極簡單で、色々な方法がある。

四、洗淨法

(1) 洗淨は、效多く、害無く而も低廉に行はるべきもので。

(2) 次下の知識に根柢を置かればならぬ。

(い) 洗淨せむとする物の性質を知らればならぬ。例えば、色附けか假漆か、木、金屬、硝子或は石の表面か、又は、壁か、敷物か、油を引きたるものか、染め付けたるものか、等の區別の如き、これである。

(ろ) 淨洗し去らうとする物質——卽ち塵埃の混合か、脂肪

か、汚點が、等の如きも辨別せねばならぬ。

(は) 洗淨に用ふるもの、例えば、石鹼、粉石鹼、晒粉、酸類、曹達類、其他特許品たる洗淨劑の如きものに關する知識も必要である。

(に) 光澤劑、溶液、乳劑、曹達及電氣作用を洗淨に使用するに當つては、其等の物理的、化學的作用を知つて置く必要がある。

(ほ) 勞力及費用の關係、專門業者の取る方法を考へて參考とするもよい。

五、家具や建具の保存耐久は、一方に於ては、掃除の時に用ひられる知識の如何に原因してゐる。

六、水、汚水、蒸氣又は溫湯或は瓦斯等に用ひらるる鉛管裝置の如きは (1)停滯、漏洩、氷結其他の事故が惹起せぬやうに注意されねばならぬ。又(2)此等の簡單な修繕、又は取り替えの如きは家人で手を下して出來るのである。

七、暖爐其他暖爐室裝置の掃除は、物理的原理の實地的手腕を要する。

八、空屋には特別の注意をせねばならぬ。

第十一章　召使につきて

召使に關する問題は、其供給、配置及召使の性質能力等に關する事項を含む。

一、合衆國のみならず、他國に於てすらも今や熟練した召使を得るに困難となつた。

(1) 召使の供給と需要との關係を見るに、合衆國に於ては、此三十年以來需要は倍となつたのにして、供給は僅か二分の一增加したに過ぎない。

(2) 働かうと思ふ者は今や家庭の勞働に從事するよりも寧ろ近代の工業の勞働に走らんとする傾向がある。

(イ) 則ち、家庭と工場とを比較するに、時間、賃金、健康、及社會生活の狀況等を見れば否認すべからざるものがある。

二、配置の上から見て大きな役目をするのは奉公人口入所(Intelligence Office) である。半數以上の奉公人は是に據つて奉公口を捜す。

(1) 口入屋には色々種類がある。

(イ) 秩序なく嚴然たる記錄を有して居ない口入屋は、信用が少ない。

(ロ) 多くの口入屋は、不正の報酬で暴利を貪りつゝある。

(ハ) 紐育市に於ては、最近に法律が施行されて、雇人及雇

主を保護する手段が講ぜられつゝある。

(2) 口入屋は、召使に關する問題を解決するよりも寧ろそれを妨げるが如き有樣である。

(イ) 博愛主義の口入屋は誤解されて隨分困難してゐる。

(3) 書狀に紹介された口入屋でも弊害が有る位だから、むしろ個人の間に周旋して貰つた召使の方が信用がある。

(4) 主婦と下女との間に契約を若し單に口のみでして置くと、後に重大な誤解を生ずるものである。如何なる契約にでも、仕事に關しては書面を取結ぶ必要がある。

三、向上發展(かうじやうはつてん)せしむる事(こと)。

(1) 合衆國の、召使―奴隸―に關する歴史の各頁は、吾人現在の問題に何等かの光明を投げて居ると思ふ。而して向上發展に關して暗示する處が多い。

(2) 勞働時間を短かくし、個人的自由を多くせねばならぬ。

(3) 召使の任務を輕減することは目の前の損失と、種々の事情を生ずる等によつて、つい遲れがちと成つて居る。

(4) 家事は次の如くして容易に行はれ、目醒ましく、進渉する。

(イ) 與ふる仕事の分量、及次に與へ樣とする仕事の分量等を、工合よく配列する必要がある。

(ロ) 一般の仕事をする召使と、或特別な仕事をさせる召使とは、嚴密に差別せねばならぬ。

(ハ) 召使の衣服については考へる餘地は隨分ある。

(5) 機械を適用すれば、時間と勞力を省き得る。漸時仕事を多くしてやれば、效率を多くし、即ち、給金を低下せしめた譯となる。

(6) 主婦と召使も更に一歩進んだ教育を受ければならぬ。

(イ) 獨逸の婦人は、召使の教育設備を政府に要求した。

(ロ) 合衆國に於ては、下婢の學校は未だ成功の域に進んで居ない。

第十二章　家庭

一、家庭(ホーム)の改良(かいりやう)。

(1) 工業、科學又は學説、主義の如きものは、今や家庭に對して革命を促しつゝある。

(2) 工業の發展は一方に於て、多くの家庭を咒詛しつゝある。

(3) 而も家庭の改良は遲々として進まず。即ち家庭について考へるよりも、發明や資本について頭を惱ます方が、遙かに有利であるからであらう。

(4) 家庭の與ふる效果如何と言ふ問題に關しては、最近に於て意味重大なる研究が行はれつゝある。

(5) 主婦たるものが、今猶因襲に囚はれて、無意義の習慣や模倣に滿足し、又之れに阿諂しつゝあるのを見る。

(6) 他人の無智に考へを及ぼさず、責任を回避しがちになるのが常である。

(7) 責任、日々の仕事の課程及家の内に蟄居して外に多く出ぬことは誰も好まぬ。

(8) 今や社會の一部では、獨立して獨立して職業により生活

することが求められて居る。

(9) 改革は遲々とし、困難を伴ふのが常である。

(イ) 總ての制度は保守に過ぐる。

(ロ) 改革を計畫するには多忙で且つ過勞の人にはむづかしく、安逸を貪る人には面倒な仕事である。

(10) 凡そ進歩は夙に少數の人が其理想を實行し一般の人が漸次に模倣することによるのである。

(11) 個人主義と協同主義

(イ) 一家一家を觀察すれば、保守的で、費用多く、贅澤に過ぐる。

(ロ) 協同購買或は、協同生活の如きは、今や有望な前途を吾人に示しつゝある。

(ハ) 俱樂部、學校、協會、政府と萬國會議との關係等を詳細に見れば、其方針、經營等に於て、吾人の家庭の參考となるもの多い事を見るであらう。

二、家庭の責任。

(1) 家庭は第一に、健康增進、病氣の豫防、病人及老人の看護保養に責任ある事を知らねばならぬ。

(2) 子供の、身體上、精神上、道德上の注意及養育は懸つて家庭の責任に在る。

(3) 家庭は、現今に於ては間接的關係を有するに過ぎぬとしても、猶市又は國家の一單位である事を忘れてはならぬ。

(4) 家庭を管理する人は、其家庭の經濟、體育、敎育社交及道德に至大なる關係ある事を知らねばならぬ。

(5) 野外の遊步又は娛樂は其方面種類隨分澤山あるけれども其本質をよく考へ、更に進んで賢明なる選擇をなし、斥ぞくべきものは、躊躇する處なく斥くる樣にせねばならぬ。

三、次に述ぶることによりて家庭は、個性を發揮せしめ、各人の志望を達せしむる點に於て、吾人に多くの幸ある未來を開き、度量と性格とを養成せしむる處である。

(1) 家庭管理人（ホームキーパー）は一方では、團欒（ホームメーカー）を作る人でなければならぬ。そして家庭に於ても、社交に於ても一大勢力者でなければならぬ。

(2) 家庭は、藝術上の趣味の中心點であつてよろしい。

(3) 又家庭は、科學上、經濟上又は社會上の知識の實地應用の中心であつてもよい。

(4) 家庭は、個人的に或は公共的に健康、企業及社會の進步又は道德の促進に貢獻する所多いものでなければならぬ。



雜報

○兒童衛生展覽會

本邦兒童の死亡率は年三十萬人に達し約二分間に一人づゝ死亡してゐる割合である、これは全く衛生思想の普及せざるに基くもので、國勢上由々しき大事である。そこで内務省にては先づ知識階級を對象として展覽會を開催することに決し、來十月二十四日より三週間御茶の水敎育博物館に於て左の分類にて開催の豫定である。

陳列品種類

(一)妊娠と分娩。胎兒の發育順序、妊娠中の心得、異常妊婦、不妊の原因、胎敎に關する圖書。分娩時の心得及び分娩用具、出産後の心得、早産兒保育法、生産と死産、出産に關する各地の風習、産院其他妊産婦の保護に關する施設、小兒と遺傳、其他。

(二)榮養。自然榮養、人工榮養、自然榮養と人工榮養との利害、離乳期の食物、食物と榮養不良、小兒と飲食物、小兒と間食、買食菓子及粗製菓子、其他。

(三)被服と住居。乳兒の衣服被物襁褓及寢具、小兒の衣服被物、小兒と住居、其他。

(四)用品。危險性及有害性の玩具、有害なる書物繪畫其他の印刷物、運動遊戲に關する用具及設備、乳母車搖籃其の他保育用品、携帶品及日用品、其他。

(五)疾病と治療。小兒と死亡、小兒と消化器病、榮養不良と發育不全、小兒と結核、小兒と呼吸器病、小兒と皮膚病、小兒と眼疾、小兒と耳鼻咽喉の疾患、小兒と口腔衛生、小兒と寄生蟲、小兒と傳染病、種痘、矯正器具、家庭藥品、救急品と救急處置、異常兒と醫療、其他。

(六)養護。小兒の發育、小兒の保育法、小兒と睡眠、小兒と淸潔、小兒と體育、小兒と子守、小兒と危險、小兒と惡癖、其他。

(七)小學校、幼稚園、保育所等の衛生。體操遊戲遠足運動會其の他健康增進に關する方法及施設、林間學校、臨海學校其の他休業中に於ける施設、辨當學用品及服裝、身體檢査、傳染病と豫防、應急手當、淸潔法、敎育衛生、其他。

(八)參考。兒童に關する迷信傳説及風俗、育兒に關する書物繪畫詩歌及俗謠、兒童の保健及保護に關する施設機關及經費、其他。

各部委員は屢〻會合を催し諸般の協議をなしその準備も著々進行を見つゝありと云ふ。因に委員諸氏の分擔を擧ぐれば左の如し。

自第一部至第八部
太田孝之　横手千代之助　棚橋源太郎
高島平三郎　富士川游　宮島幹之助
唐澤光德　野田忠廣　内野仙一

第一部（妊娠と分娩）
磐瀨雄一　伊丹繁　二階堂保則
吉岡彌生　柳澤保惠

第二部（榮養）
永井潜　佐伯矩

第三部（被服と住居）
西崎弘太郎　嘉悦孝子　栗本庸勝

第四部（用品）
巖谷季雄　土川五郎　栗本庸勝
北豐吉　澁谷德三郎

第五部（疾病と治療）
西崎弘太郎　二階堂保則　柳澤保惠
北島多一　三宅鑛一　瀨川昌世

第六部（養護の部）
嘉悦孝子　吉岡彌生　土川五郎
三宅鑛一

第七部（小學校、幼稚園、保育所等の衛生）
土川五郎　北豐吉　三宅秀
澁谷德三郎　瀨川昌世

第八部（參考の部）
巖谷季雄　二階堂保則　伊丹繁

添田敬一郎　柳澤保惠　松崎章太郎
福永尊介　三宅秀

尙ほその附帶事業として六歲以下の兒童の身體檢査を行ひ優良兒に對し表彰メタルを授與すべく瀨川、廣澤、太田の各醫學博士之れに當り更に兒童衛生思想習慣を設定し、期間内に於て衛生的規律習慣を涵養せしむる筈なり。

○女子工場監督官養成

勞資協調會にては今月五日より開始する社會政策講習に一人も多く婦人の入會を希望しつゝあるが即ち入會資格者は高女卒業程度にして九月より十二月迄四ケ月無月謝にて敎授し希望者には社會事業方面に携はらしむべく就職の周旋もなす由。

○婦人消防隊

山形縣酒田港を距る二十浬の沖合なる日本海の孤島飛島にては男子は每日漁に出づるを以て一朝火災の起りし場合の用意として婦人の消防隊を組織せしが此程消防演習を行ひ終つて表彰式を擧行し昨年十月

二十七日同村火災に際し盡力せし五名の婦人に功勞として銀指環一個宛を同縣消防義會酒田支部より贈呈したりといふ。

○新白銅貨

去月二十七日勅令を以て貨幣の形式を定むる件中を改正し補助白銅貨十錢及び五錢の形式を發表せられたるが目下造幣局にてはそれが鑄造を取急ぎつゝありて本年度中に拾錢の方は五百萬圓、五錢の方は四十九萬圓鑄造する見込みなりと云ふ、その形式は即ち左の如し。

十錢白銅貨　徑曲尺七分三厘孔徑一分五厘量一匁合性につける二百三十分參和銅七百十分中央に孔を穿つ

五錢白銅　徑六分三厘孔徑一分三厘量目五分性同上

○全國鑛泉調査

內務省衛生局保健課にては各府縣の鑛泉浴場及び保養地に關する學術的調査を開始したるが右は獨逸及び瑞西等の如く良泉を世界に紹介すると同時に地方發達の資に供せんとするものにて今日迄の調査に依れば全國に於ける冷泉は二百八十三同泉源三百十八、溫泉七百八十六なるが最も多きは青森縣の冷泉二十二、溫泉八十四にして長野縣の冷泉六、溫泉九十九、群馬縣の冷泉二、溫泉六十等之に次ぎ大阪府及び沖繩縣には保養地としての海水浴場、避暑地等あるも鑛泉は皆無なりと。

會報

○新潟支會會報

新潟支會にては例年の通り新潟市衛生會と合同七月十五日より八月三十一日迄海水浴場を設置し每日三四百人の入場者ありし由。

○轉居

麻布區より府下下澁谷字豐分六四一　松木靜江子
朝鮮より長崎縣西彼杵郡高濱村へ　弘生スキ子
麴町區より府下豐多摩郡杉並村字馬橋一二四へ　長田伊勢子
神田區より牛込區原町一丁目三十八へ　瀨川すゞ子

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

理事 鳩山春子
同 岡田德子
同 山本多穗子
同 三浦敎子
評議員 入澤常子
同 服部繁子
同 子爵母堂 仁禮壽賀子
同 土肥多越子
同 岡山とし子
同 男爵母堂 加藤鈴子
同 吉岡彌生子
同 高橋孝子
同 男爵母堂 南部限子
同 山口貞子
同 子爵母堂 松井正子
同 小松勇子
同 男爵母堂 靑山孝子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 守屋千代子
同 長谷川仲子
同 高木鍈子
同 天野多喜子
同 羽田三緒子
同 原光子
同 男爵母堂 西外子
同 緒方悅子
同 小川孝子
同 片山龜子
同 丹波貞子
同 田村きよ子
同 中濱芳子
同 松平芳子
同 男爵夫人 古市幸子
同 近藤憲子
同 相磯まさ子
同 菊池峯子
同 宮本樂子
同 瀨川さわ子

大正九年九月二十七日印刷
大正九年九月三十日發行

東京市本郷區駒込千駄木町五十八番地
編輯者兼發行者 莊司秋次郎

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷者 柴山則常

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷所 合資會社 杏林舍

東京市本郷區駒込千駄木町五十番地
發行所 私立大日本婦人衛生會事務所
（振替東京一〇六〇〇番）

賣捌所
東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鎗屋町 良明堂
同市本郷區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京日本橋區吳服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 盛春堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店


胃腸新劑
タカヂアスターゼ
藥學博士 工學博士 高峰讓吉氏發見
強度優越
效力不變
澱粉不消化に起因する胃腸疾患に應用して卓効を奏するタカヂアスターゼは、更に脂肪の消化吸收をも容易ならしむる事を發見せられて以來、愈々
完全なる消化劑
として學會に承認せらるゝに至れり、故に本劑を服用する時は食慾を增進し、營養を佳良ならしめ、體量を增加す、而して本品を結核患者に應用するは消化吸收を良好ならしめ營養を增進するが故なり。
▲類似品を厳し特にタカヂアスターゼと御指定を乞ふ
▲說明書あり御申越次第進呈す
東京室町
三共株式會社
TAKA-DIASTASE
タカヂアスターゼ
100 TABLETS
タカヂアスターゼ錠
TAKA-DIASTASE